



下水道モニター 平成26年度第5回アンケート結果

東京都下水道局では、様々な事業を行なっています。

第5回アンケートでは、東京都下水道局や下水道事業に対するイメージ、事業活動に対する認知度や評価、東京都の下水道が抱える課題などについてうかがいました。

この報告書は、その結果をまとめたものです。

- ◆実施期間 平成27年1月16日(金)～2月1日(日)17日間
- ◆対象者 東京都下水道局「平成26年度下水道モニター」
※東京都在住20歳以上の男女個人
- ◆回答者数 408名
- ◆調査方法 ウェブ形式による自記式アンケート

【目次】

I 結果の概要

II 回答者属性

III 集計結果

1. 下水道についてのイメージ
2. 下水道事業の情報源について
3. 下水道の再構築について
4. 浸水対策のための施設整備について
5. 優先して耐震化によりトイレ昨日を確保すべき施設について
6. 合流式下水道の課題への取組について
7. 下水の処理方法について
8. 地球温暖化対策について
9. 各施策の重要度について

I 結果の概要

1. 下水道についてのイメージ 7～11 頁

■ 【下水道のイメージ】

- （全体）下水道のイメージについては、「日常生活に欠かせない」が86%と最も高く、次いで「汚水処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」が85%、「川や海の水質汚濁を防ぐ」が55%であった。
- （性別）性別でみると、「汚水処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」は男性が82%、女性が88%と女性の方が6ポイント高く、「日常生活に欠かせない」は男性が89%、女性が82%と男性の方が7ポイント高かった。
- （年代別）年代別でみると、「汚水処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」は70歳以上が95%と最も高く、次いで70歳以上が91%、40歳代が87%であり、「日常生活に欠かせない」は50歳代90%と最も高く、次いで30歳代が89%、60歳代が87%であった。
- （地域別）地域別でみると、「汚水処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」は23区が84%、多摩地区が87%と多摩地区の方が3ポイント高く、「日常生活に欠かせない」は23区が85%、多摩地区が88%と23区の方が3ポイント高かった。

2. 下水道事業の情報源について 12～16 頁

■ 【下水道事業の情報源】

- （全体）下水道事業の情報源については、「広報東京都」が56%と最も高かった。次いで「ニュース東京の下水道（下水道局広報紙）」、「インターネットサイト」がともに31%、「下水道局公式ホームページ」が29%であった。
- （性別）性別でみると、「広報東京都」は男性が58%、女性が55%と男性の方が3ポイント高く、「ニュース東京の下水道（下水道局広報紙）」は男性が31%、女性が30%と男性の方が1ポイント高かった。
- （年代別）年代別でみると、「広報東京都」は70歳以上が85%と最も高く、次いで60歳代が79%、50歳代が60%であり、「ニュース東京の下水道（下水道局広報紙）」は60歳代が47%と最も高く、次いで70歳以上が45%、50歳代が33%であった。また、「下水道局公式ホームページ」は20歳代が33%と最も高く、次いで60歳代が32%であった。
- （地域別）地域別でみると、「広報東京都」は23区が56%、多摩地区が59%と多摩地区の方が3ポイント高く、「ニュース東京の下水道（下水道局広報紙）」は23区が33%、多摩地区が27%と23区の方が6ポイント高かった。

3. 下水道管の再構築について 17～18 頁

■ 【下水道管の再構築】

- （全 体）下水道管の再構築については、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」が62%と最も高く、次いで「耐用年数を超過している下水道管の割合」が22%であった。
- （性 別）性別でみると、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」は男性が59%、女性が64%と女性の方が5ポイント高く、「耐用年数を超過している下水道管の割合」は男性が24%、女性が20%と男性の方が4ポイント高かった。
- （年代別）年代別でみると、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」は70歳以上が75%と最も高く、「耐用年数を超過している下水道管の割合」は30歳代と60歳代がともに25%で次いで高かった
- （地域別）地域別でみると、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」は23区が57%、多摩地区が68%と多摩地区の方が11ポイント高く、「耐用年数を超過している下水道管の割合」は23区が23%、多摩地区が20%と23区の方が3ポイント高かった。

4. 浸水対策のための施設整備について 19～20 頁

■ 【浸水対策のための施設整備】

- （全 体）浸水対策のための施設整備については、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」が42%と最も高く、次いで「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」が39%であった。
- （性 別）性別でみると、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」は男性と女性がともに42%となり、「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」は男性が36%、女性が43%と女性の方が7ポイント高かった。
- （年代別）年代別でみると、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」は30歳代が48%と最も高く、「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」は60歳代が49%と最も高かった
- （地域別）地域別でみると、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」は23区が38%、多摩地区が48%と多摩地区の方が10ポイント高く、「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」は23区が44%、多摩地区が32%と23区の方が12ポイント高かった。

5. 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設について 21～25 頁

■ 【優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設】

- （全 体）優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設については、「病院・診療所などの医療機関」が58%と半数以上を占めた。また、「帰宅困難者が滞留する可能性の高いターミナル駅」が45%、「災害復旧の拠点となる国、都、区市町村などの庁舎」と「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設（コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど）」がともに44%であった
- （性 別）性別でみると、「病院・診療所などの医療機関」は男性が57%、女性が59%と女性の方が2ポイント高く、「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設（コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど）」は男性が43%、女性が45%と男性の方が2ポイント高かった。
- （年代別）年代別でみると、「病院・診療所などの医療機関」は30歳代が67%と最も高く、次いで40歳代が60%であった。「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設（コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど）」は70歳以上が50%と最も高く、「帰宅困難者が滞留する可能性の高いターミナル駅」は50歳代が50%と最も高く、次いで30歳代が48%であった
- （地域別）地域別でみると、「病院・診療所などの医療機関」は23区と多摩地区がともに58%、「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設（コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど）」は23区が41%、多摩地区が49%と多摩地区の方が8ポイント高かった。

6. 合流式下水道の課題への取組について 26 頁

■ 【合流式下水道の課題への取組】

- （全 体）合流式下水道の課題への取組については、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」が40%と最も高く、次いで「多くの時間と費用をかけても、分流化に取り組むべき」が36%であった。
- （性 別）性別でみると、「多くの時間と費用をかけても、分流化に取り組むべき」は男性が43%、女性が29%と男性の方が14ポイント高かった。
- （年代別）年代別でみると、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」は、年齢が上がるにつれて高くなる傾向であり、70歳以上では65%であった。
- （地域別）地域別でみると、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」は23区と多摩地区がともに40%となった。

7. 下水の処理方法について 27 頁

■ 【下水の処理方法】

- （全 体）下水の処理方法については、「水質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスをとるべきである」が61%と最も高く、次いで「エネルギーや対策に要する時間・費用がかかっても、水質改善を優先していくべきである」が28%であった。
- （性 別）性別でみると、「水質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスをとるべきである」は男性が55%、女性が67%と女性の方が12ポイント高かった。
- （年代別）年代別でみると、「水質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスをとるべきである」は20歳代が70%と最も高く、次いで30歳代が66%であった。
- （地域別）地域別でみると、「エネルギーや対策に要する時間・費用がかかっても、水質改善を優先していくべきである」は23区が31%、多摩地区が22%と23地区の方が9ポイント高かった。

8. 地球温暖化対策について 28 頁

■ 【地球温暖化対策】

- （全 体）地球温暖化対策については、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」が50%と最も高く、次いで「下水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を優先するべき」が34%であった
- （性 別）性別でみると、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」は男性が51%、女性が49%と男性の方が2ポイント高く、「下水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を優先するべき」は男性が35%、女性が32%と男性の方が3ポイント高かった。
- （年代別）年代別でみると、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」は70歳以上代が60%と最も高く、「下水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を優先するべき」は40歳代が39%と最も高かった
- （地域別）地域別でみると、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」は23区が47%、多摩地区が53%と多摩地区の方が6ポイント高かった。

9. 各施策の重要度について 29～35 頁

■ 【各施策の重要度】

- （全 体）各施策の重要度について、「重要」と「やや重要」を合わせた【重要】は、「老朽化施設の再構築」が94%と最も高く、次いで「下水道施設の耐震化」が92%、「浸水対策」が91%であった

Ⅱ 回答者属性

- 平成26年度下水道モニター数は、アンケート実施時で1023名であった。
- 第5回アンケートは、平成27年1月16日(金)から2月1日(日)までの17日間で実施した。その結果、408名の方から回答があった。(回答率40.0%)

■ 回答者 性別・年代

性別・年代		回答者数	モニター数	回答率
男性	20歳代	5	27	18.5%
	30歳代	39	115	33.9%
	40歳代	59	161	36.6%
	50歳代	41	105	39.0%
	60歳代	44	92	47.8%
	70歳以上	16	37	43.2%
	小計	204	537	38.0%
女性	20歳代	22	53	41.5%
	30歳代	64	162	39.5%
	40歳代	58	143	40.6%
	50歳代	32	68	47.1%
	60歳代	24	48	50.0%
	70歳以上	4	8	50.0%
	小計	204	482	42.3%
合計		408	1019	40.0%

※第四回アンケート(1021名)より23区在住・専業主婦・60代女性1名、多摩地区在住・会社員・20代男性1名が辞退した。

■ 回答者 居住地

居住地	回答者数	モニター数	回答率
23区	246	623	39.5%
多摩地区	157	395	39.7%
その他の地区	5	1	—
合計	408	1019	40.0%

※ 回答者が引越し等で東京に居住していない為、モニター数をなしとする。

■ 回答者 職業

職業	回答者数	モニター数	回答率
会社員	174	475	36.6%
自営業	39	86	45.3%
学生	9	20	45.0%
私立学校教員・塾講師	4	12	33.3%
パート	30	66	45.5%
アルバイト	14	24	58.3%
専業主婦	80	201	39.8%
無職	49	106	46.2%
その他	9	29	31.0%
合計	408	1019	40.0%

Ⅲ集計結果

※ 文中の「n」は質問に対する回答者数で、比率（％）はすべて「n」を基数（100％）として算出している。
また、小数点以下を四捨五入してあるので、内訳の合計が100％にならないこともある。

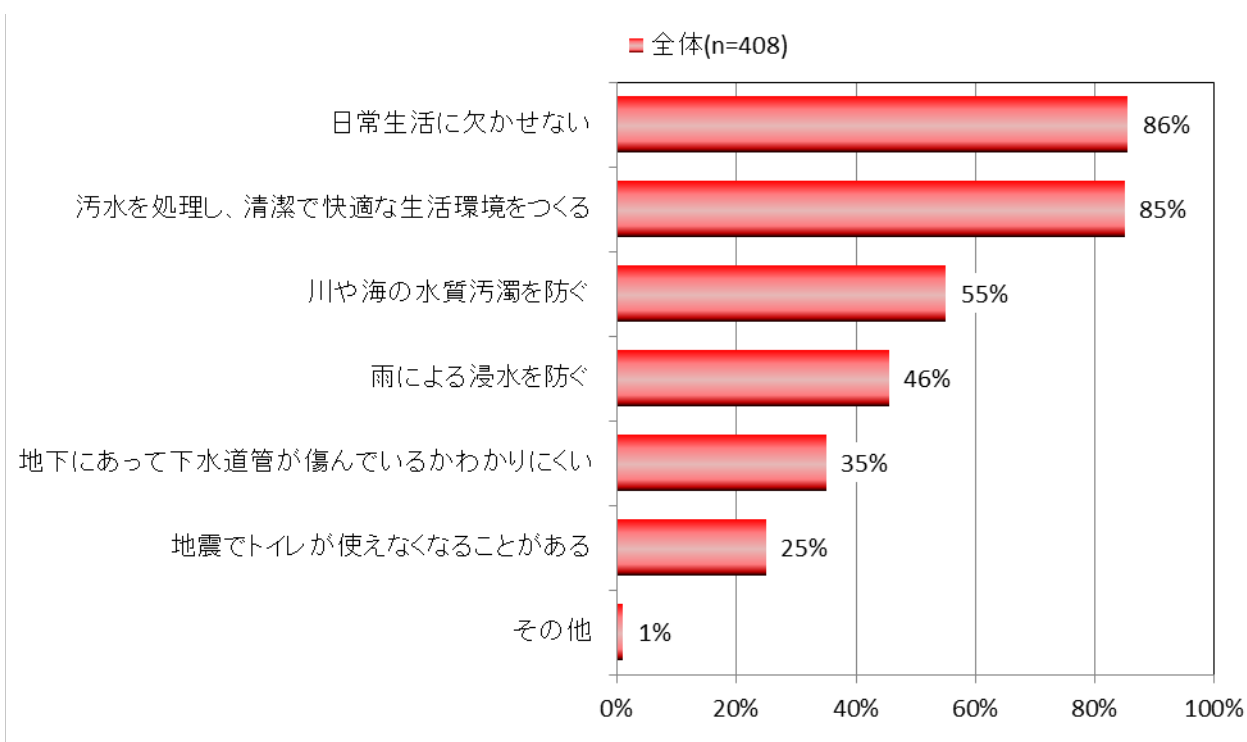
1. 『下水道についてのイメージ』

1－1. 下水道のイメージ〔全体〕

- ◆ 下水道のイメージについては、「日常生活に欠かせない」が86％と最も高く、次いで「汚水を処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」が85％、「川や海の水質汚濁を防ぐ」が55％であった。

Q5. あなたは「下水道」から、どのようなイメージを思い浮かべますか。次の中からいくつでも選んでください。（複数回答）

図1－1 下水道のイメージ〔全体〕

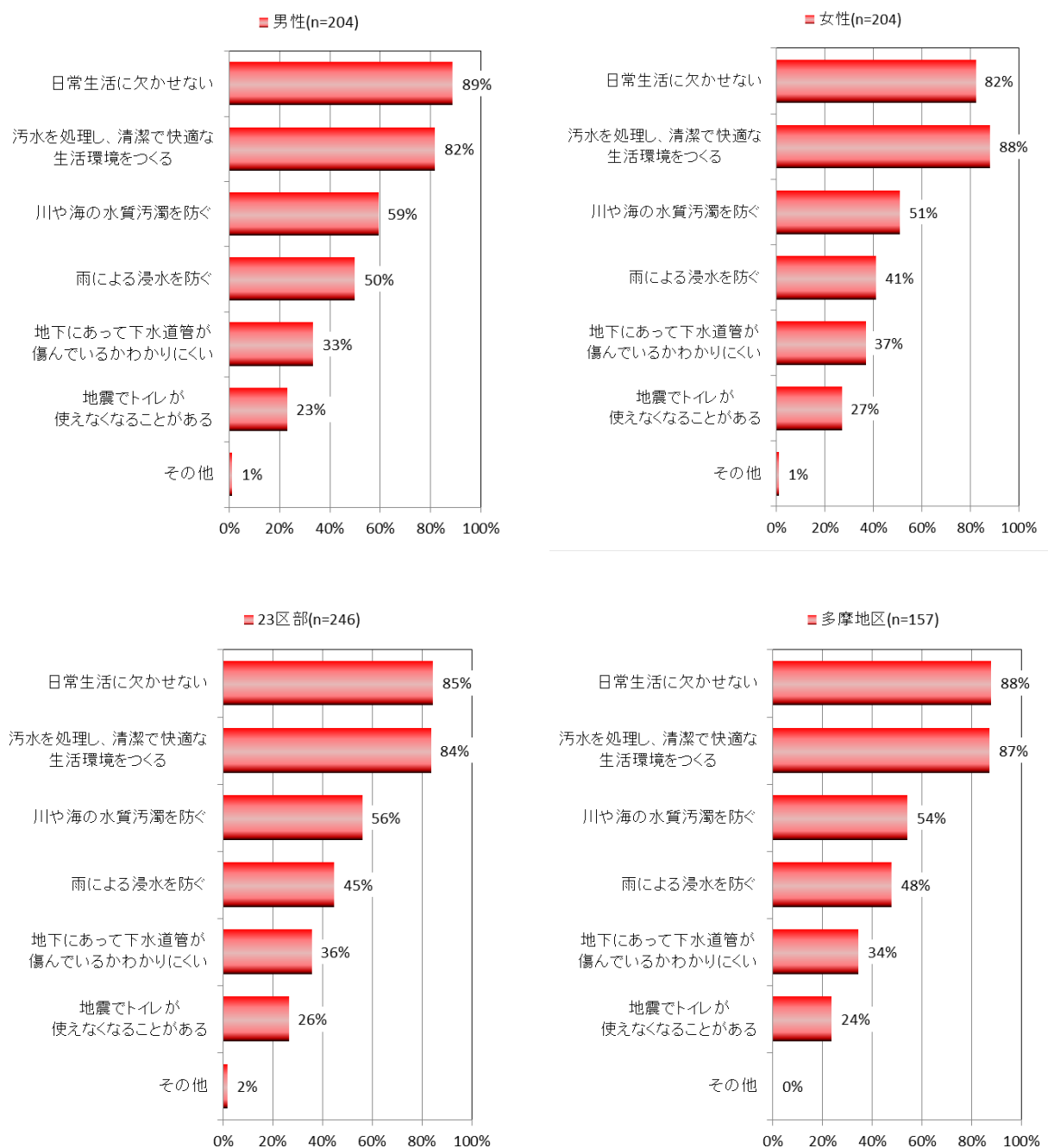


1-2. 下水道のイメージ〔性別・地域別〕

- ◆ 性別でみると、「汚水を処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」は男性が 82%、女性が 88%と女性の方が 6 ポイント高く、「日常生活に欠かせない」は男性が 89%、女性が 82%と男性の方が 7 ポイント高かった。
- ◆ 地域別でみると、「汚水を処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」は 23 区が 84%、多摩地区が 87%と多摩地区の方が 3 ポイント高く、「日常生活に欠かせない」は 23 区が 85%、多摩地区が 88%と 23 区の方が 3 ポイント高かった。

Q5. あなたは「下水道」から、どのようなイメージを思い浮かべますか。次の中からいくつでも選んでください。（複数回答）

図 1-2 下水道のイメージ〔性別・地域別〕

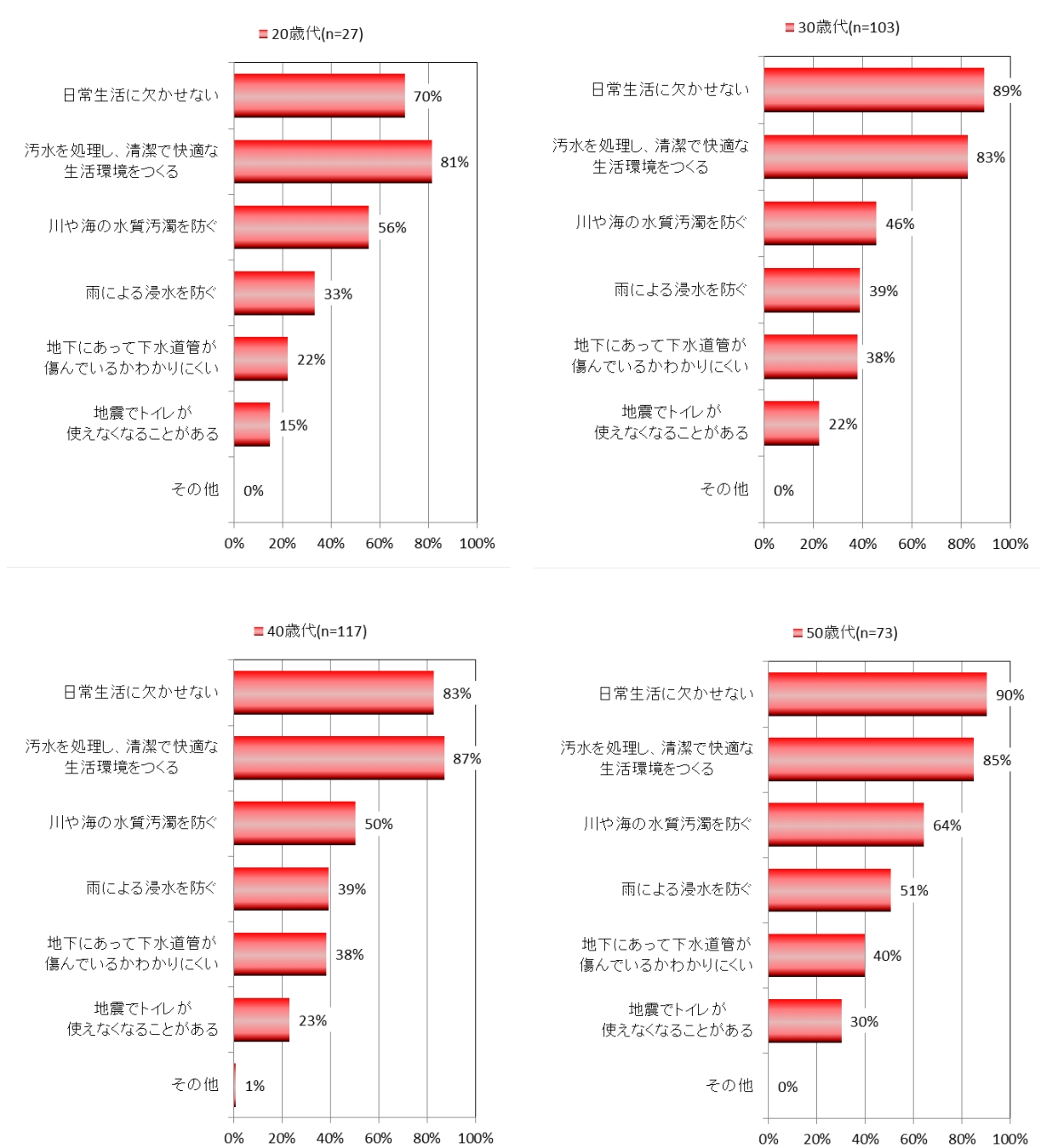


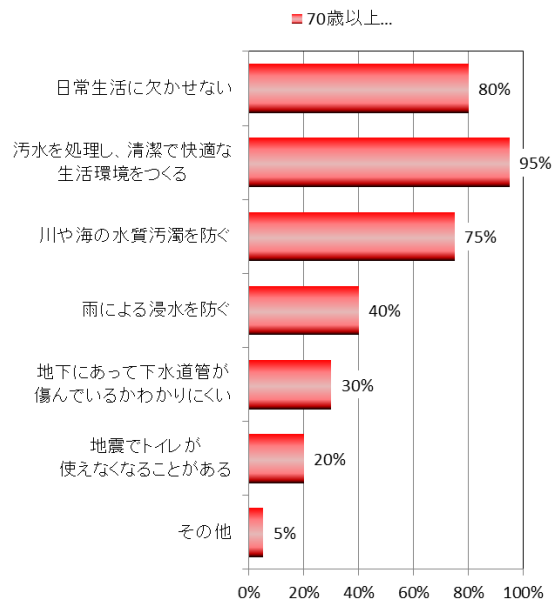
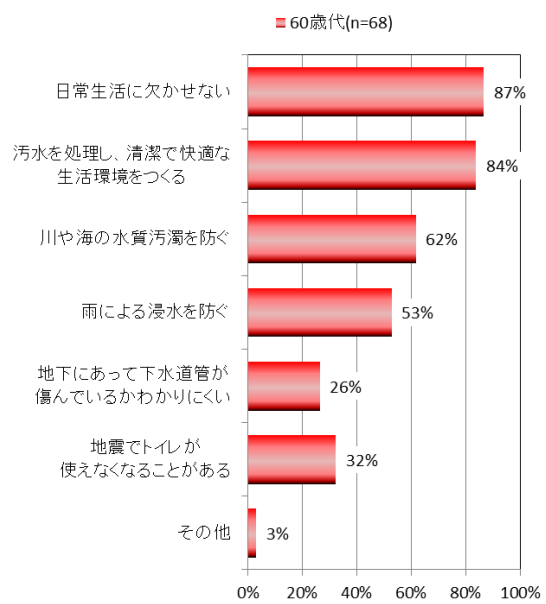
1-3. 下水道のイメージ〔年代別〕

- ◆ 年代別でみると、「汚水を処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」は70歳以上が95%と最も高く、次いで40歳代が87%であり、「日常生活に欠かせない」は50歳代90%と最も高く、次いで30歳代が89%、60歳代が87%であった。

Q5. あなたは「下水道」から、どのようなイメージを思い浮かべますか。次の中からいくつでも選んでください。（複数回答）

図1-3 下水道のイメージ〔年代別〕





1－2. 下水道のイメージ〔その他〕

◆ 以下に下水道のイメージについての意見をお寄せいただいたので、一部紹介する。

Q5. あなたは「下水道」から、どのようなイメージを思い浮かべますか。次の中からいくつでも選んでください。（複数回答）

- ✧ 世界の先端を行っている。（60 歳代男性、23 区）
- ✧ マンホールが思い浮かびます。（60 歳代男性、23 区）
- ✧ 豪雨などでオーバーフローするのではないかと思います。（40 歳代女性、23 区）
- ✧ 管理が大変なのではと感じます。（70 歳以上女性、23 区）

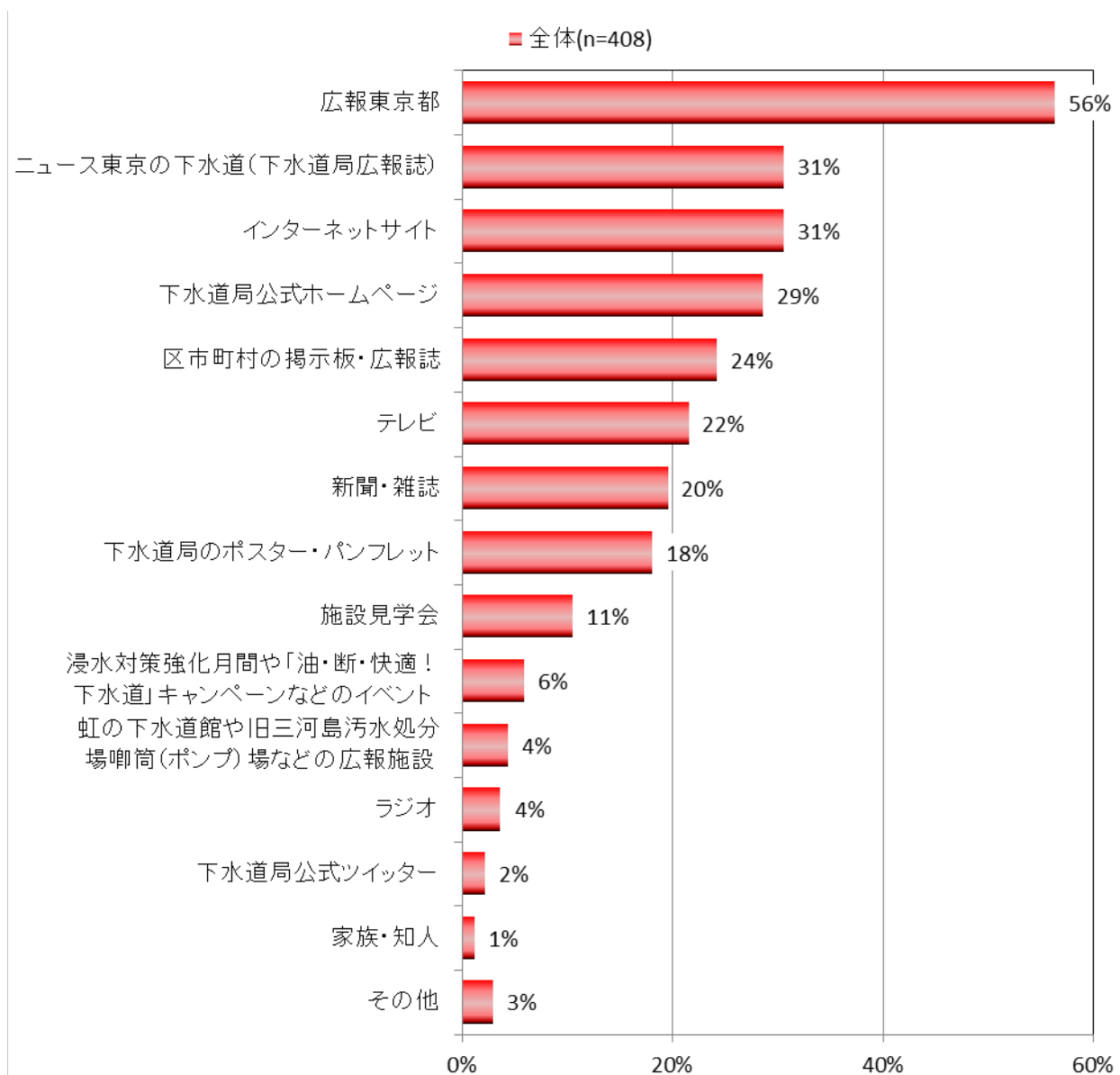
2. 『下水道事業の情報源』について

2-1. 下水道事業の情報源〔全体〕

- ◆ 下水道事業の情報源については、「広報東京都」が56%と最も高かった。次いで「ニュース東京の下水道（下水道局広報紙）」、「インターネットサイト」がともに31%、「下水道局公式ホームページ」が29%であった。

Q6. あなたは東京の下水道事業の内容について、どのようなところから知ることが多いですか。以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選び下さい（複数回答）。

図2-1 下水道事業の情報源〔全体〕

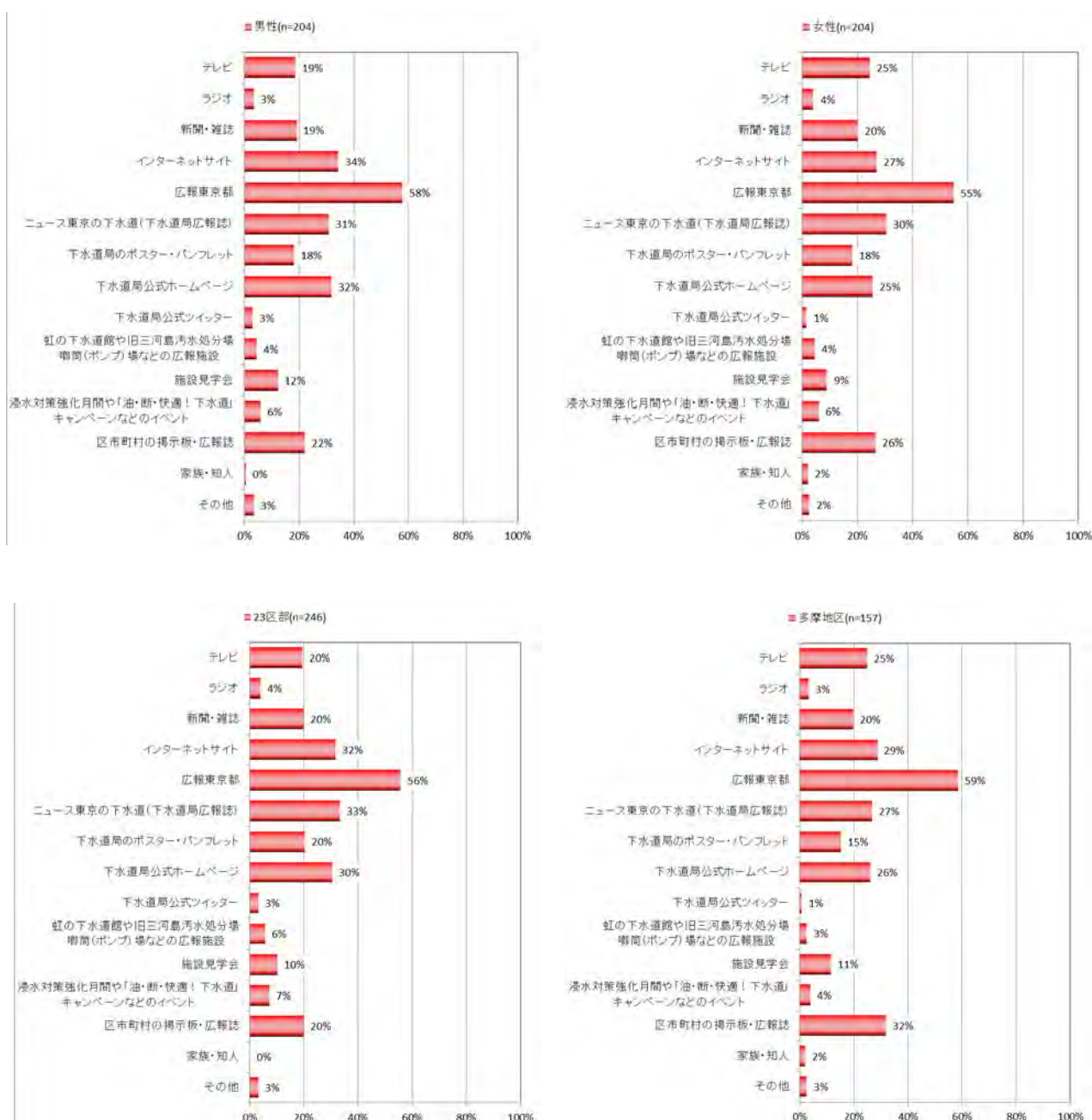


2-2. 下水道事業の情報源〔性別・地域別〕

- ◆ 性別でみると、「広報東京都」は男性が58%、女性が55%と男性の方が3ポイント高く、「ニュース東京の下水道（下水道局広報誌）」は男性が31%、女性が30%と男性の方が1ポイント高かった。
- ◆ 地域別でみると、「広報東京都」は23区が56%、多摩地区が59%と多摩地区の方が3ポイント高く、「ニュース東京の下水道（下水道局広報誌）」は23区が33%、多摩地区が27%と23区の方が6ポイント高かった。

Q6. あなたは東京の下水道事業の内容について、どのようなところから知ることが多いですか。以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選び下さい（複数回答）。

図2-2 下水道事業の情報源〔性別・地域別〕

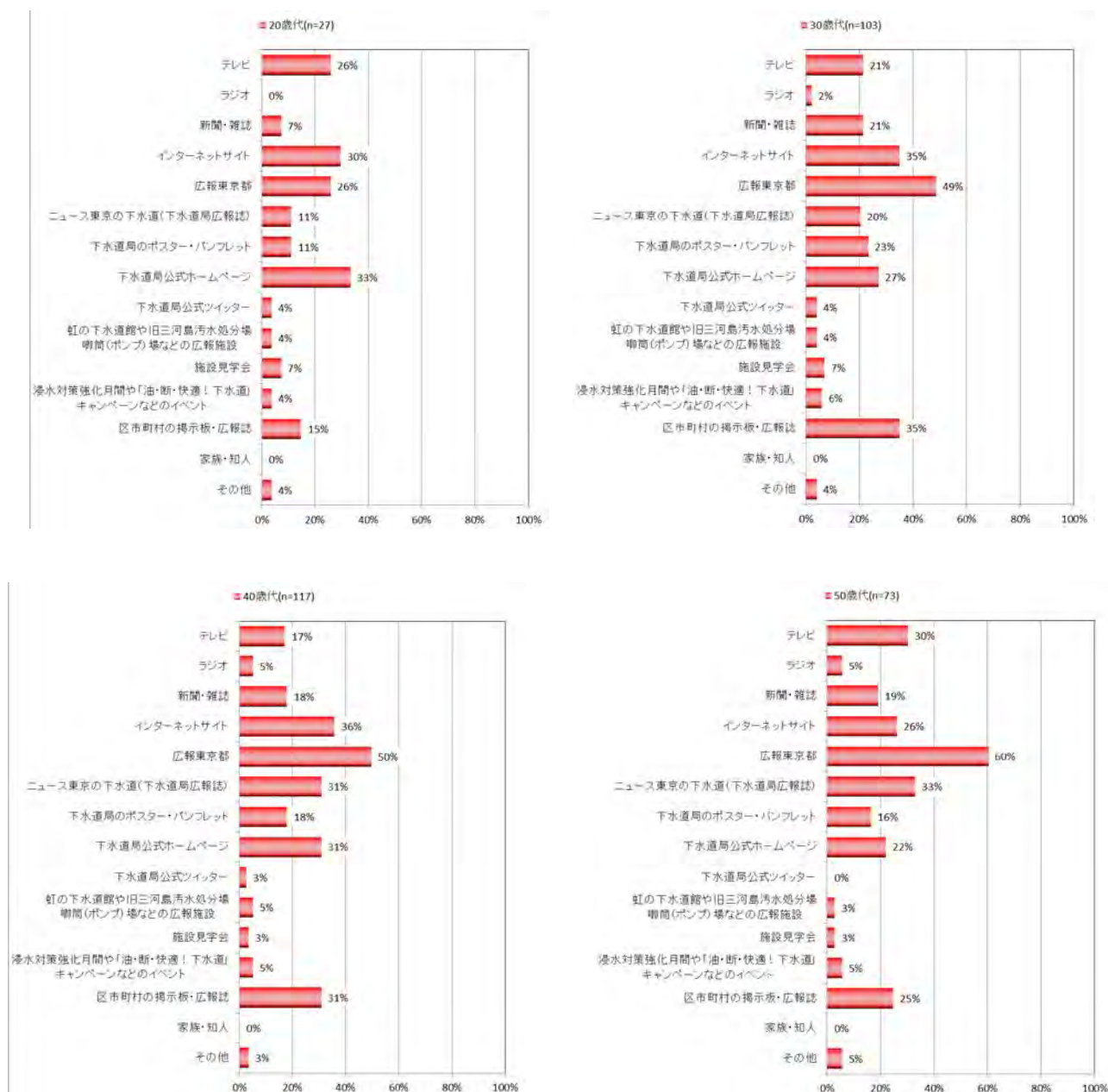


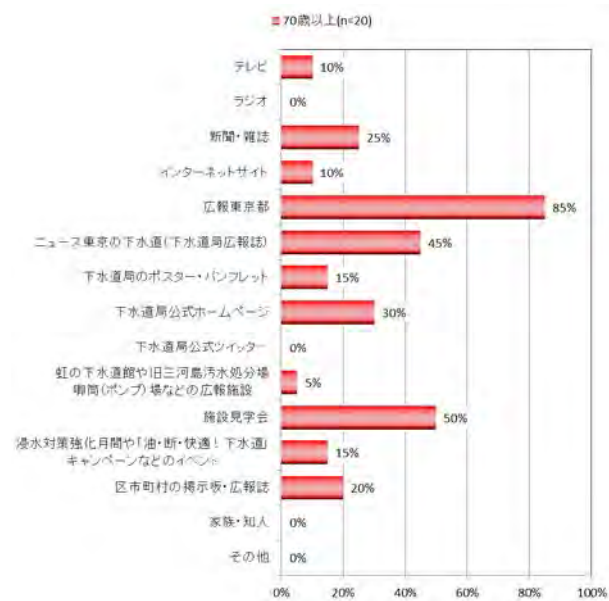
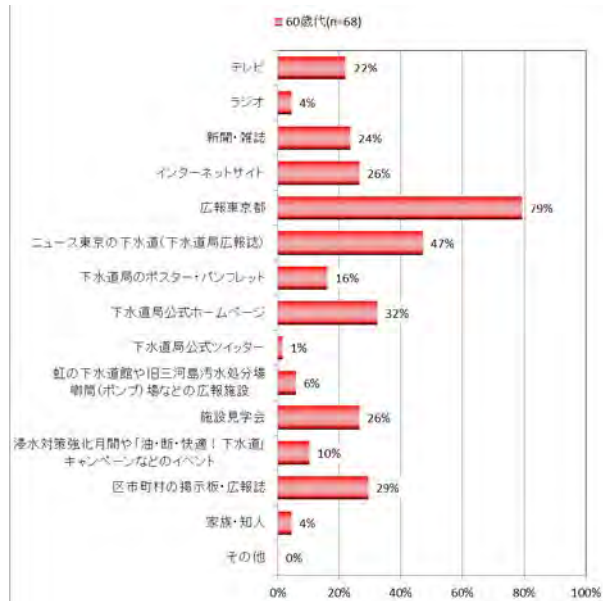
2-3. 下水道事業の情報源〔年代別〕

- ◆ 年代別でみると、「広報東京都」は70歳以上が85%と最も高く、次いで60歳代が79%、50歳代が60%であり、「ニュース東京の下水道（下水道局広報誌）」は60歳代が47%と最も高く、次いで70歳以上が45%、50歳代が33%であった。また、「下水道局公式ホームページ」は20歳代が33%と最も高く、次いで60歳代が32%であった。

Q6. あなたは東京の下水道事業の内容について、どのようなところから知ることが多いですか。以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選び下さい（複数回答）。

図2-3 下水道事業の情報源〔年代別〕





2-4. 下水道事業の情報源〔その他〕

◆ 以下に下水道事業の情報源についての意見をお寄せいただいたので、一部紹介する。

Q6. あなたは東京の下水道事業の内容について、どのようなところから知ることが多いですか。以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選び下さい。（複数回答）

- ✧ 電車内のテレビ（30 歳代男性、多摩地区）
- ✧ 地元の祭（40 歳代男性、23 区）
- ✧ あまり知る機会がない。（30 歳代女性、23 区）
- ✧ JRや東京メトロの車内モニター（40 歳代女性、23 区）

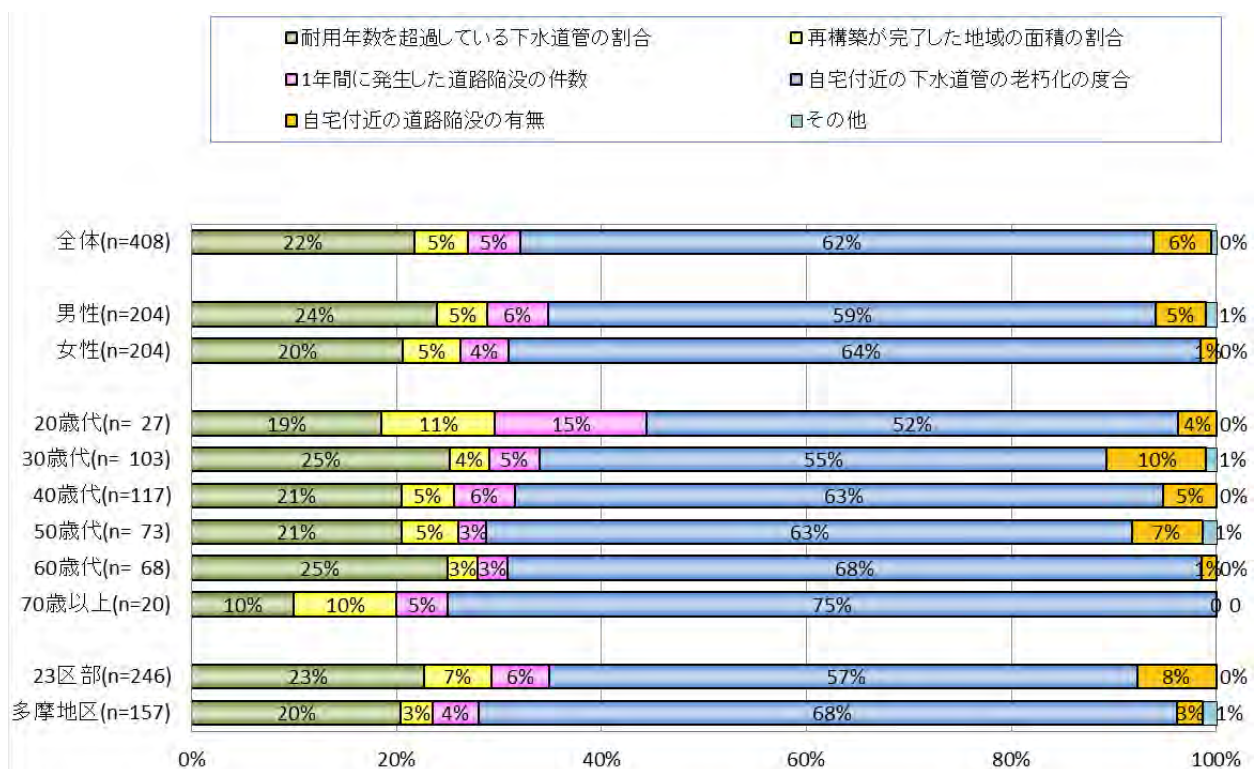
3. 『下水道管の再構築』について

3-1. 下水道管の再構築

- ◆ 下水道管の再構築については、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」が 62%と最も高く、次いで「耐用年数を超過している下水道管の割合」が 22%であった。
- ◆ 性別でみると、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」は男性が 59%、女性が 64%と女性の方が 5 ポイント高く、「耐用年数を超過している下水道管の割合」は男性が 24%、女性が 20%と男性の方が 4 ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」は 70 歳以上が 75%と最も高く、「耐用年数を超過している下水道管の割合」は 30 歳代と 60 歳代がともに 25%で次いで高かった。
- ◆ 地域別でみると、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」は 23 区が 57%、多摩地区が 68%と多摩地区の方が 11 ポイント高く、「耐用年数を超過している下水道管の割合」は 23 区が 23%、多摩地区が 20%と 23 区の方が 3 ポイント高かった。

Q7. 下水道管の再構築に関する情報としてあなたが知りたいことについて、以下の選択肢の中から、該当するものを1つお選びください。(単一回答)

図3-1 下水道管の再構築



3－2. 下水道管の再構築〔その他〕

◆ 以下に下水道管の再構築についての意見をお寄せいただいたので、一部紹介する。

Q7. 下水道管の再構築に関する情報としてあなたが知りたいことについて、以下の選択肢の中から、該当するものを1つお選びください。（単一回答）

- ☆ 必要な予算だと思います。（30 歳代男性、多摩地区）
- ☆ 再構築に必要な費用と予算手当の状況（50 歳代男性、多摩地区）

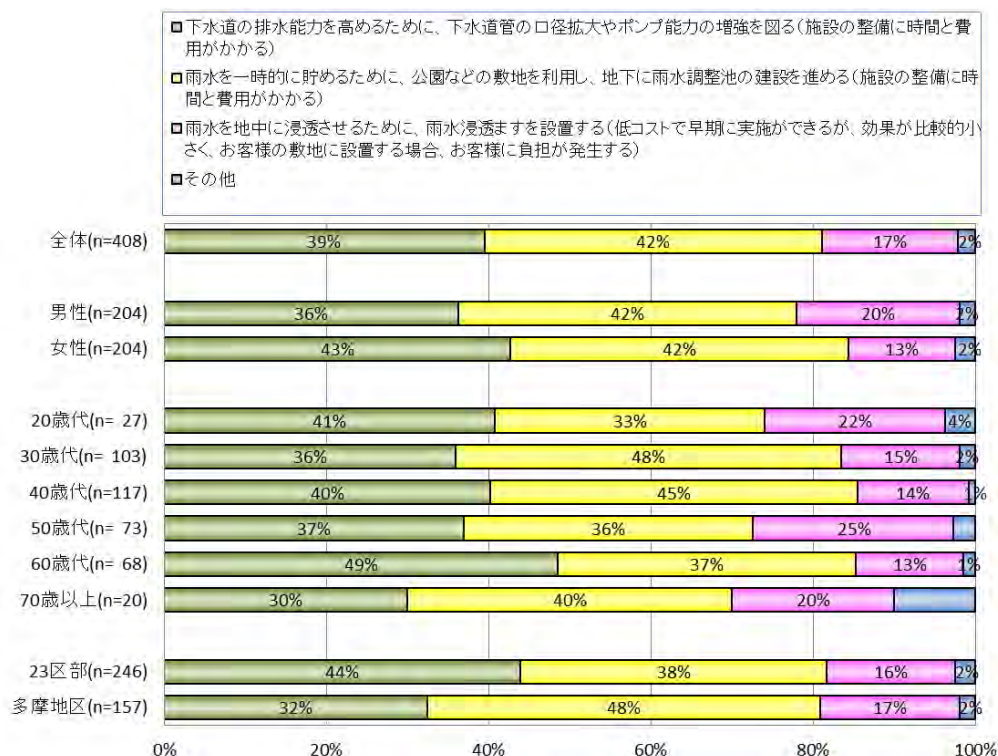
4. 『浸水対策のための施設設備』について

4-1. 浸水対策のための施設設備〔全体〕

- ◆ 浸水対策のための施設整備については、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」が 42%と最も高く、次いで「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」が 39%であった。
- ◆ 性別でみると、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」は男性と女性がともに 42%となり、「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」は男性が 36%、女性が 43%と女性の方が 7 ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」は 30 歳代が 48%と最も高く、「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」は 60 歳代が 49%と最も高かった。
- ◆ 地域別でみると、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」は 23 区が 38%、多摩地区が 48%と多摩地区の方が 10 ポイント高く、「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」は 23 区が 44%、多摩地区が 32%と 23 区の方が 12 ポイント高かった。

Q8. 下水道による浸水対策に関し、あなたが重点を置くべきと思うものについて、以下の選択肢の中から、該当するものを1つお選びください。（単一回答）

図4-1 浸水対策のための施設設備〔全体〕



4-2. 浸水対策のための施設設備〔その他〕

◆ 以下に浸水対策のための施設設備についての意見をお寄せいただいたので、一部紹介する。

Q8. 下水道による浸水対策に関し、あなたが重点を置くべきと思うものについて、以下の選択肢の中から、該当するものを1つお選びください。（単一回答）

- ✧ 雨水浸透ますの費用をお客様負担としないでやる。（70歳以上女性、23区）
- ✧ 道路の地中浸透化を行う。（70歳以上男性、23区）
- ✧ 道路や敷地内に降った雨水ができるだけ多くその土地の地中に浸透するよう、例えば透水性の高い舗装などをスタンダードとして整備する。（50歳代女性、23区）
- ✧ 住宅の新築に際しては助成金をだし雨水浸透枳を義務化する。（60歳代女性、23区）
- ✧ 道路のドブ部分の舗装を破壊し土にする。（50歳代男性、23区）
- ✧ 下水道単独で考えるとどれも費用がかかるイメージ。もっと街全体でできる対策を考えて欲しい。（40歳代女性、23区）

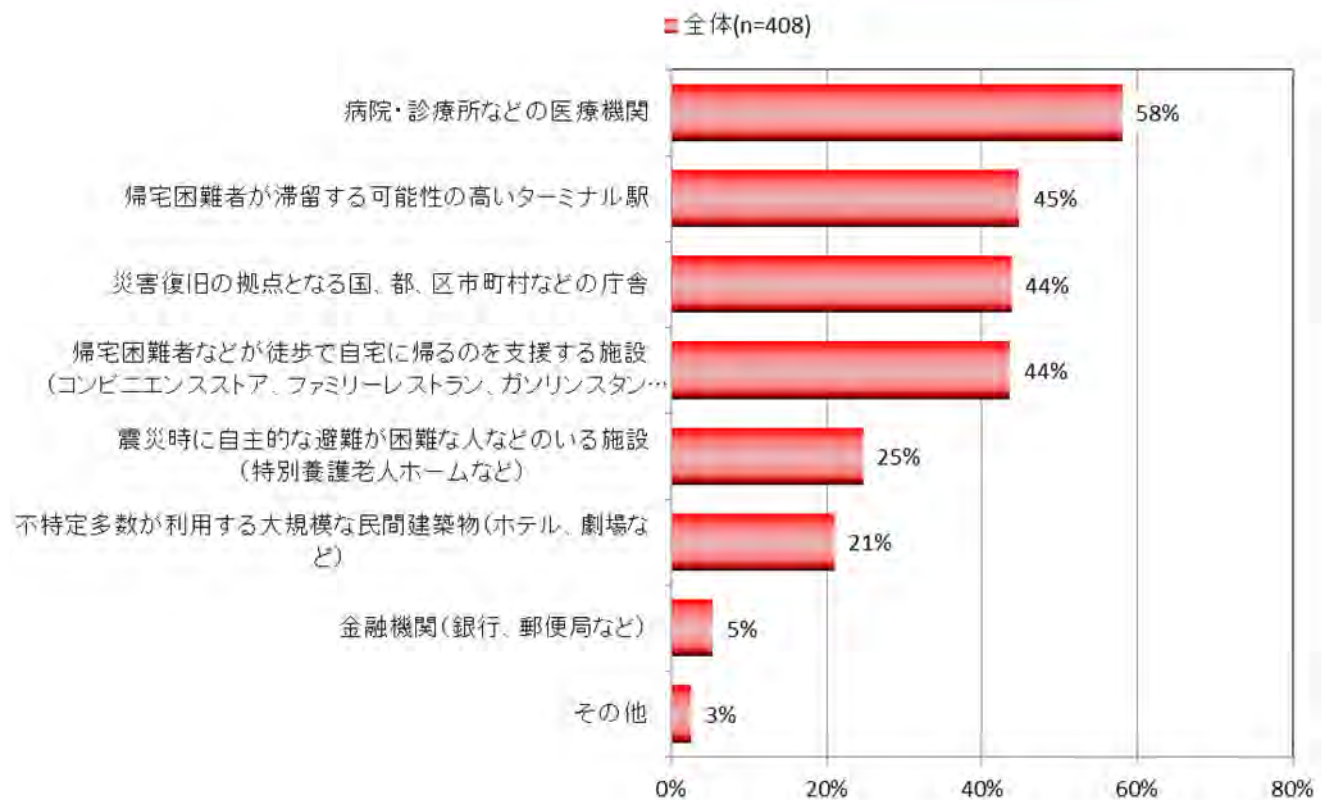
5. 『優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設』について

5-1. 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設

- ◆ 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設については、「病院・診療所などの医療機関」が58%と半数以上を占めた。また、「帰宅困難者が滞留する可能性の高いターミナル駅」が45%、「災害復旧の拠点となる国、都、区市町村などの庁舎」と「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設（コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど）」がともに44%であった。

Q9. 下水道管の再構築に関する情報としてあなたが知りたいことについて、以下の選択肢の中から、該当するものを1つお選びください。（単一回答）

図5-1 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設

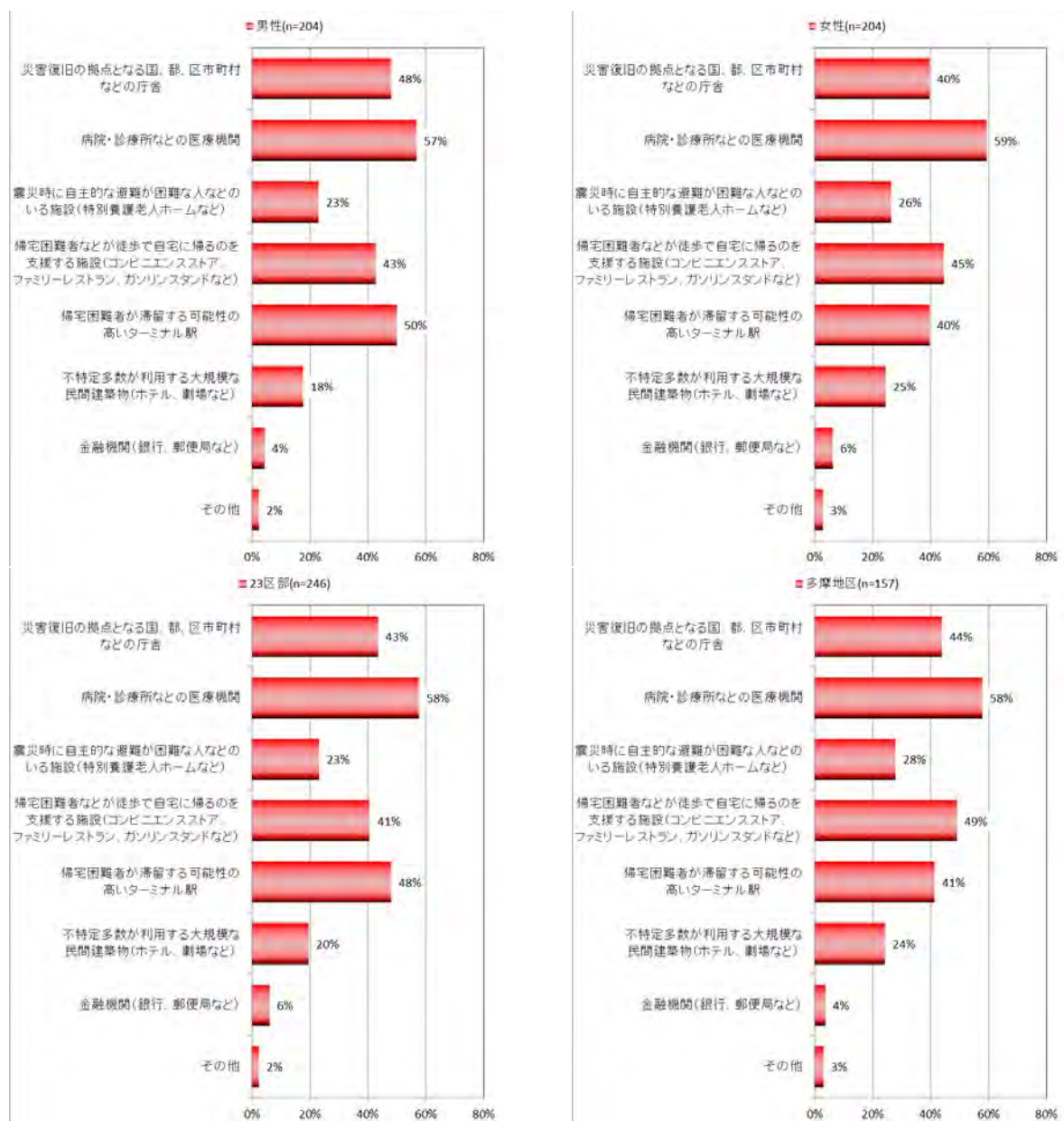


5-2. 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設〔性別・地域別〕

- ◆ 性別でみると、「病院・診療所などの医療機関」は男性が57%、女性が59%と女性の方が2ポイント高く、「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設（コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど）」は男性が43%、女性が45%と男性の方が2ポイント高かった。
- ◆ 地域別でみると、「病院・診療所などの医療機関」は23区と多摩地区がともに58%、「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設（コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど）」は23区が41%、多摩地区が49%と多摩地区の方が8ポイント高かった。

Q9. 今後、あなたは震災時にどのような施設のトイレ機能を優先して確保すべきだと思いますか。以下の選択肢の中から、該当するものを2つまで選んでください。（複数回答）

図5-2 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設〔性別・地域別〕

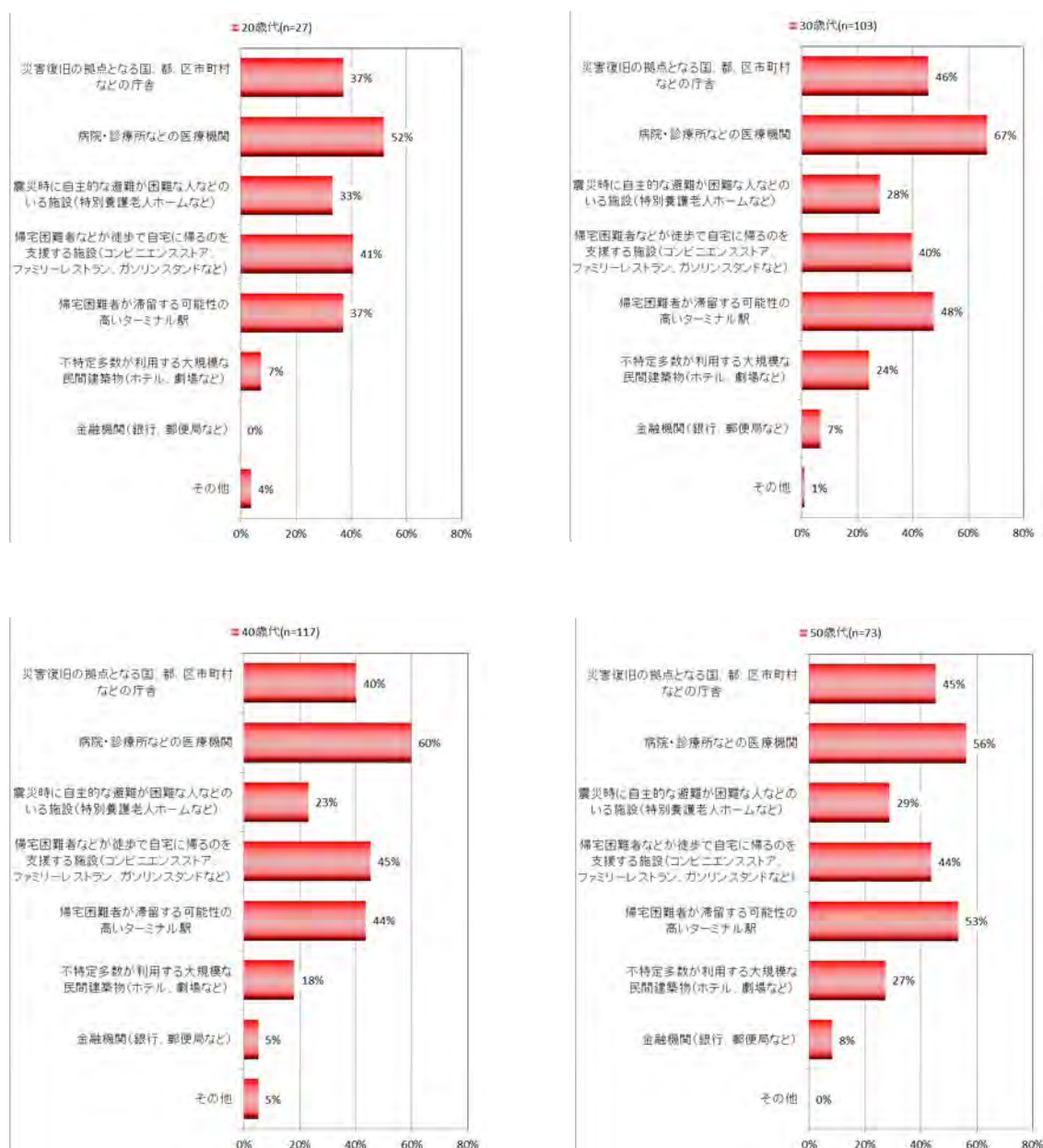


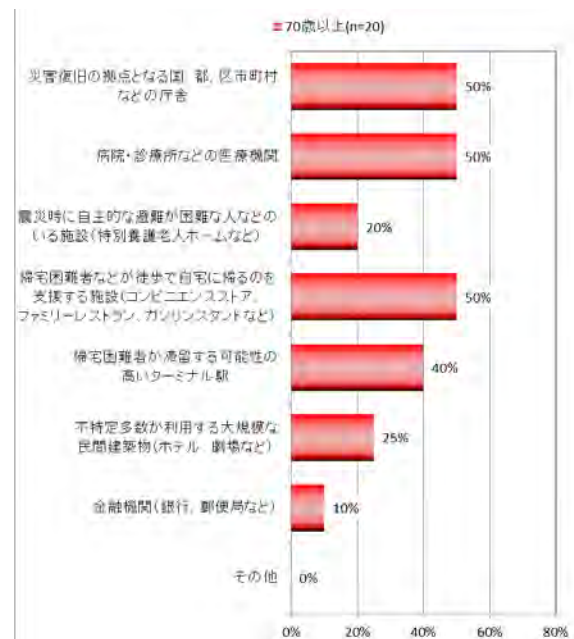
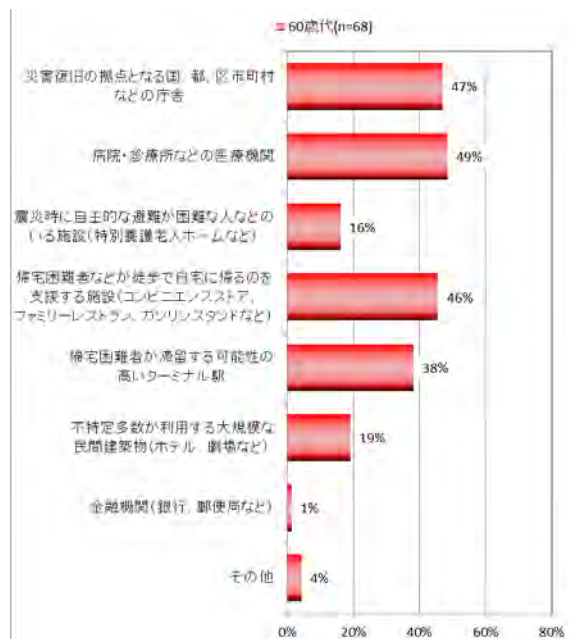
5-3. 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設〔年代別〕

- ◆ 年代別でみると、「病院・診療所などの医療機関」は30歳代が67%と最も高く、次いで40歳代が60%であった。「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設（コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど）」は70歳以上が50%と最も高く、「帰宅困難者が滞留する可能性の高いターミナル駅」は50歳代が53%と最も高く、次いで30歳代が48%であった。

Q9. 今後、あなたは震災時にどのような施設のトイレ機能を優先して確保すべきだと思いますか。以下の選択肢の中から、該当するものを2つまで選んでください。（複数回答）

図5-3 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設〔年代別〕





5-3. 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設〔その他〕

◆ 以下に浸水対策のための施設設備についての意見をお寄せいただいたので、一部紹介する。

Q9. 今後、あなたは震災時にどのような施設のトイレ機能を優先して確保すべきだと思いますか。以下の選択肢の中から、該当するものを2つまで選んでください。（複数回答）

- ✧ 公園等発見しやすく利用しやすい場所（20 歳代女性、23 区）
- ✧ 大型ショッピングセンターや、駅ビル（40 歳代女性、多摩地区）
- ✧ 避難所となる体育館など（40 歳代女性、23 区）
- ✧ 避難場所に指定されている学校など（60 歳代男性、23 区）

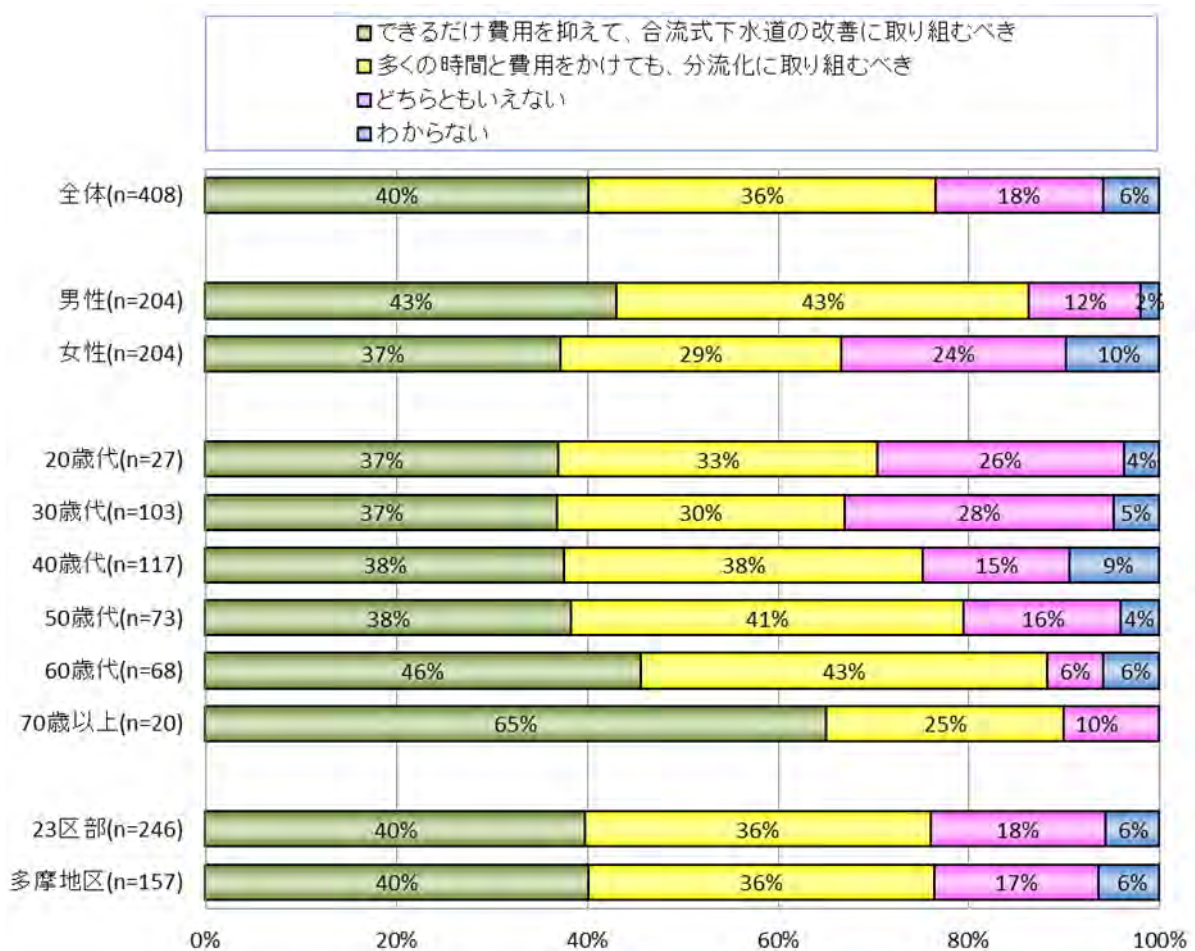
6. 『合流式下水道の課題への取組』について

6-1. 合流式下水道の課題への取組

- ◆ 合流式下水道の課題への取組については、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」が40%と最も高く、次いで「多くの時間と費用をかけても、分流化に取り組むべき」が36%であった。
- ◆ 性別でみると、「多くの時間と費用をかけても、分流化に取り組むべき」は男性が43%、女性が29%と男性の方が14ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」は、年齢が上がるにつれて高くなる傾向であり、70歳以上では65%であった。
- ◆ 地域別でみると、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」は23区と多摩地区がともに40%となった。

Q10. あなたは、合流式下水道の課題を解決するためにどのような取組を行うべきと考えますか。以下の選択肢の中から、該当するものを1つお選びください。（単一回答）

図6-1 合流式下水道の課題への取組



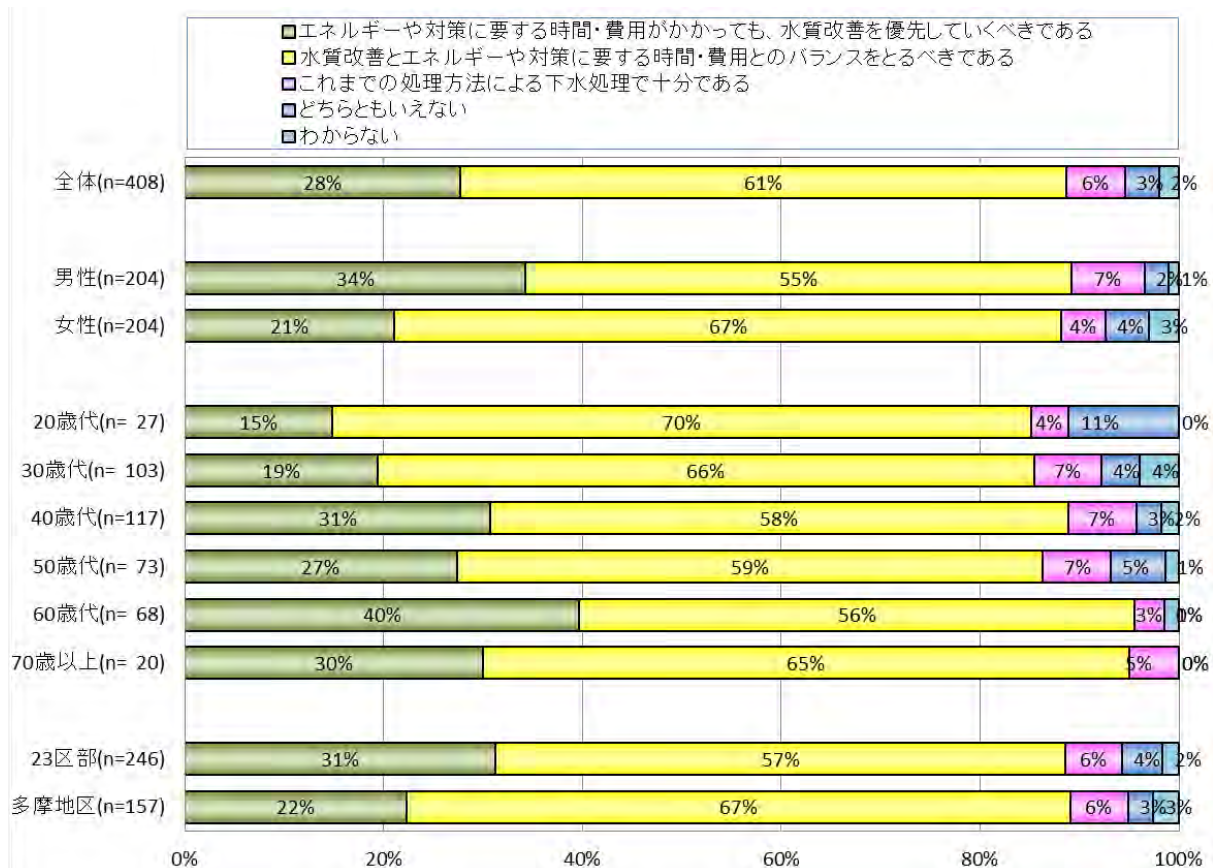
7. 『下水の処理方法』について

7-1. 下水の処理方法

- ◆ 下水の処理方法については、「水質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスをとるべきである」が61%と最も高く、次いで「エネルギーや対策に要する時間・費用がかかっても、水質改善を優先していくべきである」が28%であった。
- ◆ 性別でみると、「水質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスをとるべきである」は男性が55%、女性が67%と女性の方が12ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「水質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスをとるべきである」は20歳代が70%と最も高く、次いで30歳代が66%であった。
- ◆ 地域別でみると、「エネルギーや対策に要する時間・費用がかかっても、水質改善を優先していくべきである」は23区が31%、多摩地区が22%と23区の方が9ポイント高かった。

Q11. 以上のことを踏まえ、下水の処理について今後どのようにしていくべきと考えますか。以下の選択肢の中から、該当するものを1つお選びください。（単一回答）

図7-1 下水の処理方法



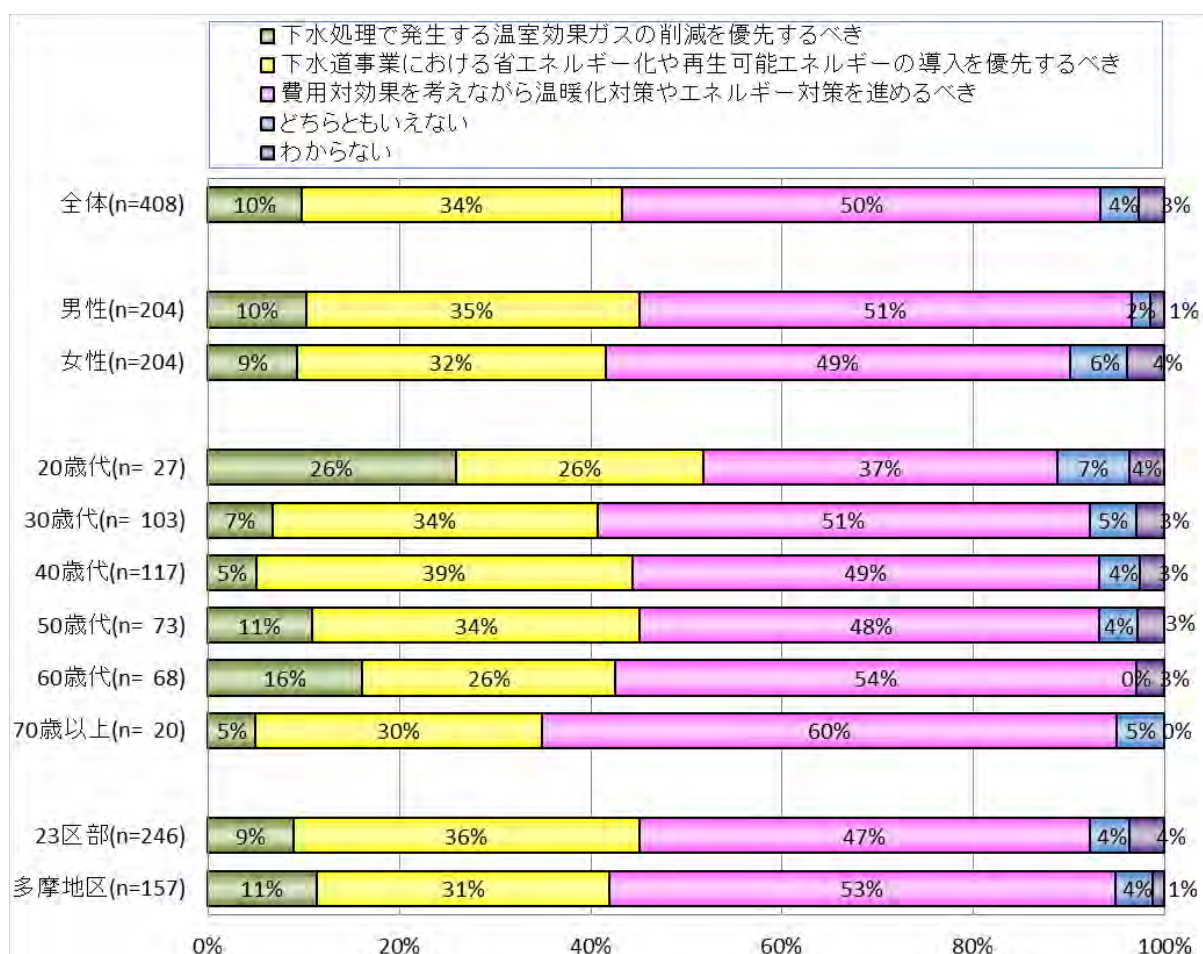
8. 『地球温暖化対策』について

8-1. 地球温暖化対策

- ◆ 地球温暖化対策については、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」が50%と最も高く、次いで「下水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を優先するべき」が34%であった。
- ◆ 性別でみると、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」は男性が51%、女性が49%と男性の方が2ポイント高く、「下水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を優先するべき」は男性が35%、女性が32%と男性の方が3ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」は70歳以上代が60%と最も高く、「下水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を優先するべき」は40歳代が39%と最も高かった。
- ◆ 地域別でみると、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」は23区が47%、多摩地区が53%と多摩地区の方が6ポイント高かった。

Q12. 以上のようなことを踏まえ、あなたは、今後下水道事業における地球温暖化対策において、どのようなことを最も優先するべきと思いますか。以下の選択肢の中から、該当するものを1つお選びください。
(単一回答)

図8-1 地球温暖化対策



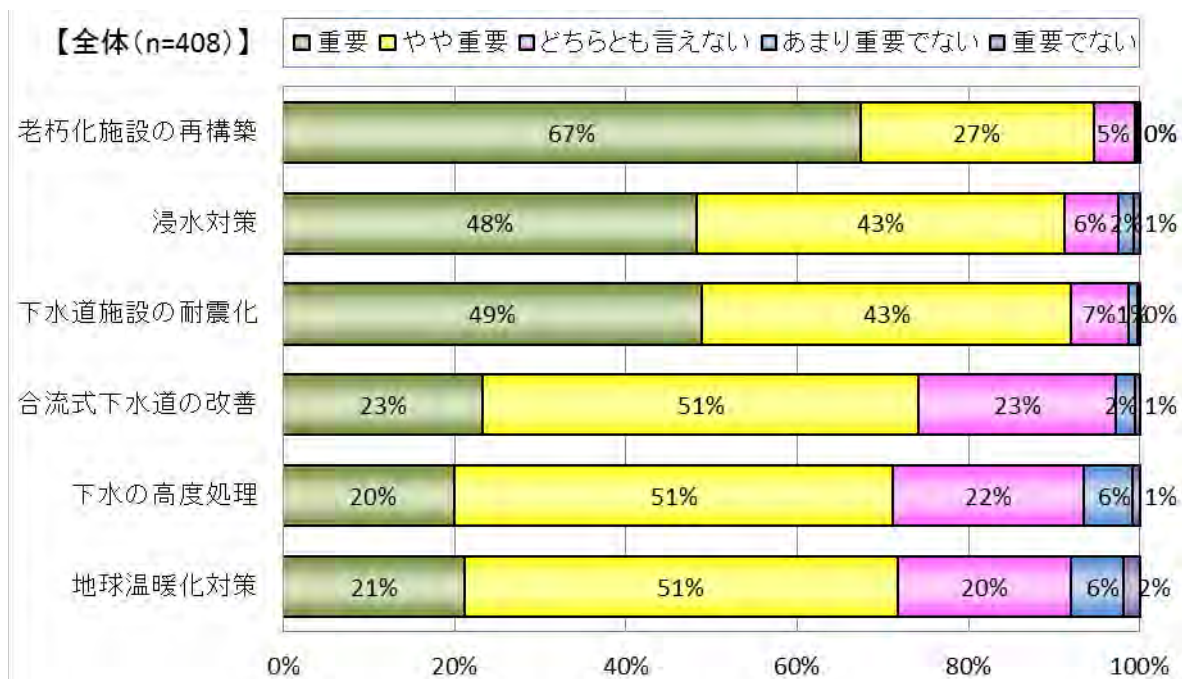
9. 『各施策の重要度』について

9-1. 各施策の重要度〔全体〕

- ◆ 各施策の重要度について、「重要」と「やや重要」を合わせた【重要】は、「老朽化施設の再構築」が94%と最も高く、次いで「下水道施設の耐震化」が92%、「浸水対策」が91%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施策について、あなたはどのように考えますか。以下に示す各施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。（単一回答）

図9-1 各施策の重要度〔全体〕

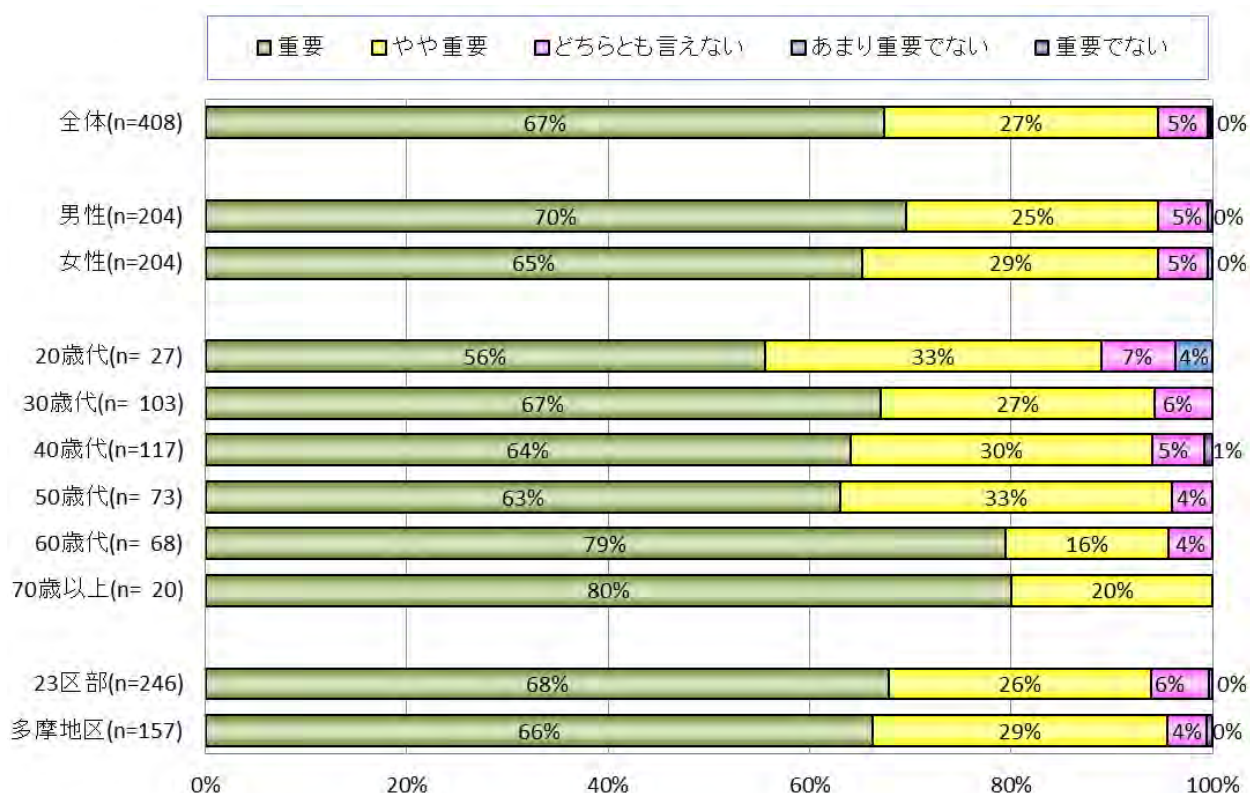


9-2. 各施策の重要度【老朽化施設の再構築】

- ◆ 【老朽化施設の再構築】については、「重要」が69%、「やや重要」が27%であった。
- ◆ 性別でみると、「重要」は男性が70%、女性が65%と男性の方が5ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「重要」は70歳以上が80%と最も高く、20歳代が56%と最も低かった。
- ◆ 地域別でみると、「重要」は23区が68%、多摩地区が66%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施策について、あなたはどのように考えますか。以下に示す各施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。(単一回答)

図9-2-1 各施策の重要度【老朽化施設の再構築】

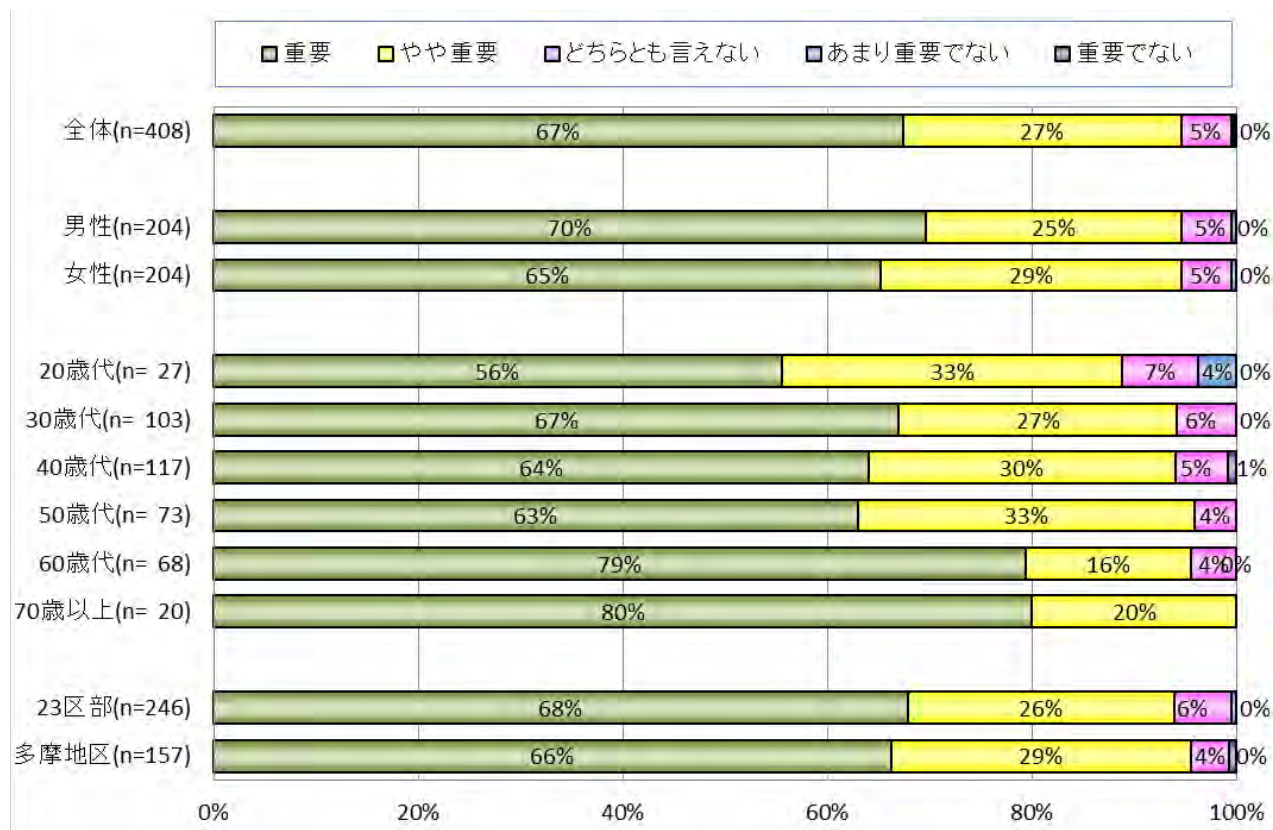


9-2. 各施策の重要度【浸水対策】

- ◆ 【浸水対策】については、「重要」が67%、「やや重要」が27%であった。
- ◆ 性別でみると、「重要」は男性が70%、女性が65%と男性の方が5ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「重要」は70歳以上が80%と最も高く、20歳代が56%と最も低かった。
- ◆ 地域別でみると、「重要」は23区が68%、多摩地区が66%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施策について、あなたはどのように考えますか。以下に示す各施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。(単一回答)

図9-2-2 各施策の重要度【浸水対策】

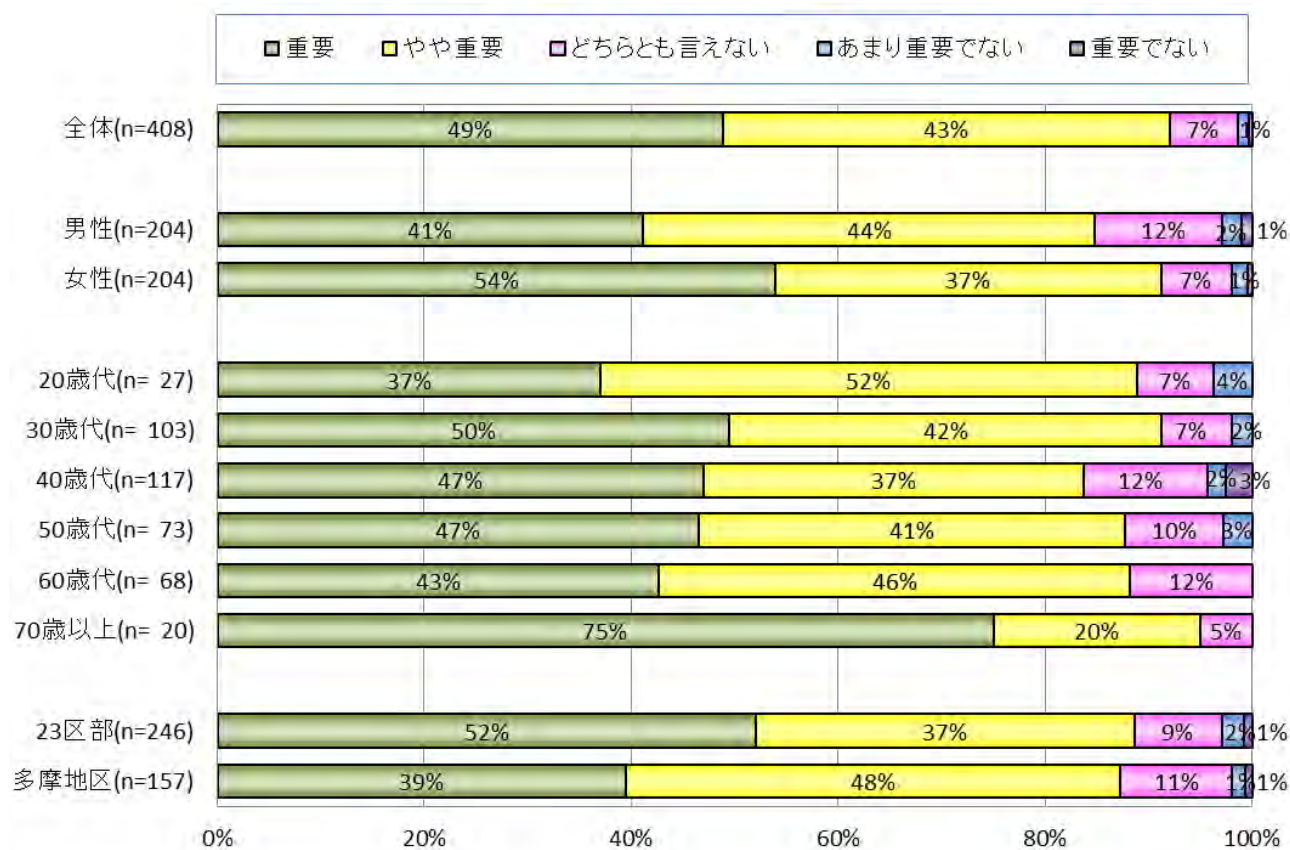


9-2. 各施策の重要度【下水道施設の耐震化】

- ◆ 【下水道施設の耐震化】については、「重要」が49%、「やや重要」が43%であった。
- ◆ 性別でみると、「重要」は男性が41%、女性が54%と女性の方が13ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「重要」は70歳以上が75%と最も高く、20歳代が37%と最も低かった。
- ◆ 地域別でみると、「重要」は23区が52%、多摩地区が39%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施策について、あなたはどのように考えますか。以下に示す各施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。（単一回答）

図9-2-3 各施策の重要度【下水道施設の耐震化】

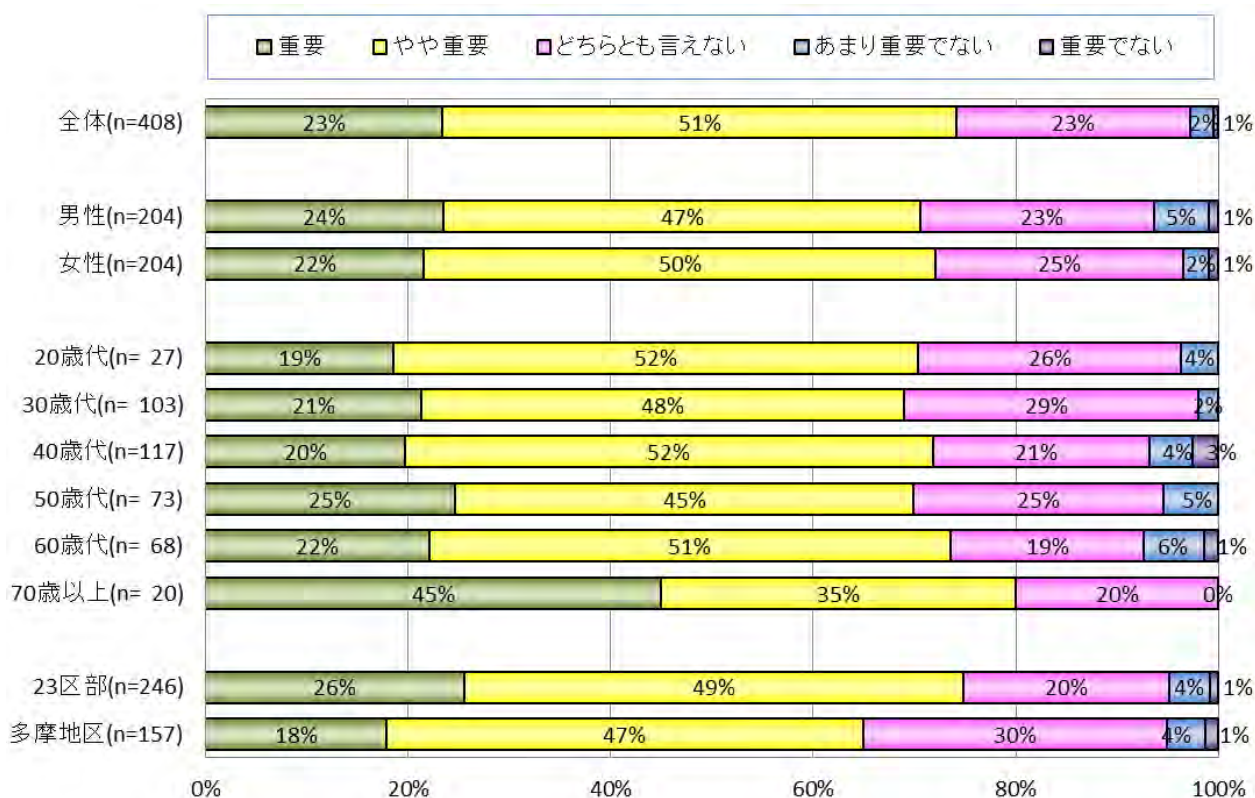


9-2. 各施策の重要度【合流式下水道の改善】

- ◆ 【合流式下水道の改善】については、「重要」が23%、「やや重要」が51%であった。
- ◆ 性別でみると、「重要」は男性が24%、女性が22%と大きな差はみられなかった。
- ◆ 年代別でみると、「重要」は70歳以上が45%と最も高く、20歳代が19%と最も低かった。
- ◆ 地域別でみると、「重要」は23区が26%、多摩地区が18%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施策について、あなたはどのように考えますか。以下に示す各施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。(単一回答)

図9-2-4 各施策の重要度【合流式下水道の改善】

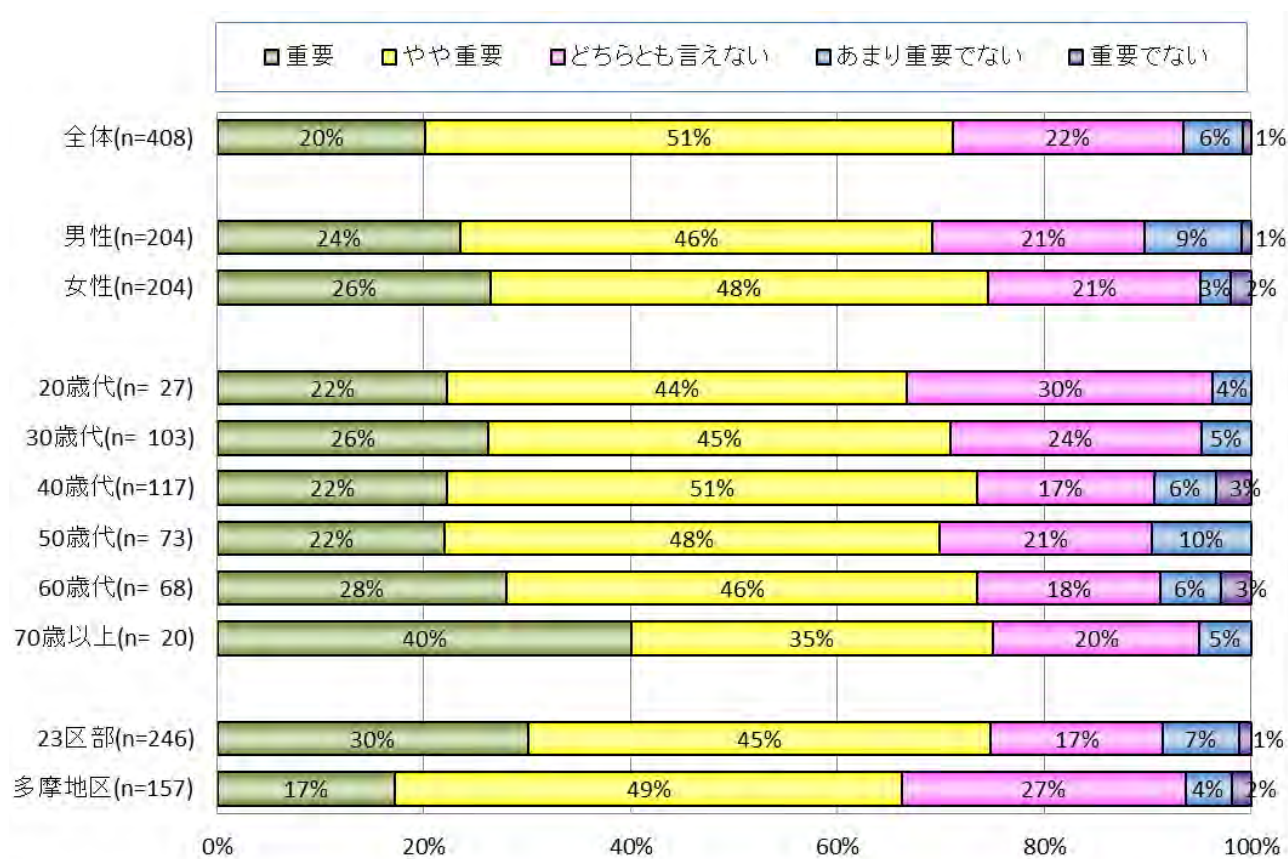


9-2. 各施策の重要度【下水の高度処理】

- ◆ 【下水の高度処理】については、「重要」が20%、「やや重要」が51%であった。
- ◆ 性別でみると、「重要」は男性が24%、女性が26%と大きな差はみられなかった。
- ◆ 年代別でみると、「重要」は70歳以上が40%と最も高く、20歳代、40歳代、50歳代がともに22%で最も低かった。
- ◆ 地域別でみると、「重要」は23区が30%、多摩地区が17%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施策について、あなたはどのように考えますか。以下に示す各施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。（単一回答）

図9-2-5 各施策の重要度【下水の高度処理】

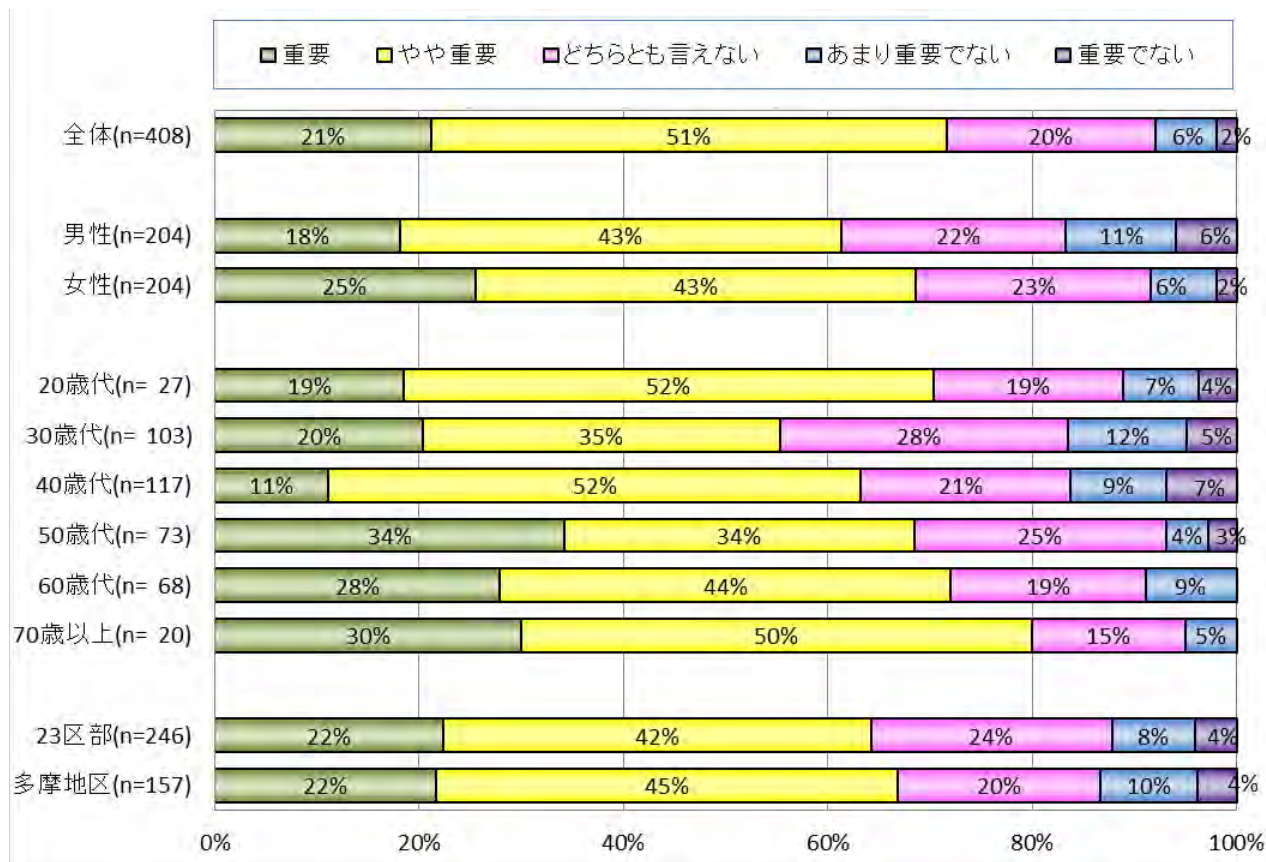


9-2. 各施策の重要度【地球温暖化対策】

- ◆ 【地球温暖化対策】については、「重要」が21%、「やや重要」が51%であった。
- ◆ 性別でみると、「重要」は男性が18%、女性が25%と女性の方が7ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「重要」は50歳以上が34%と最も高く、40歳代が11%と最も低かった。
- ◆ 地域別でみると、「重要」は23区と多摩地区がともに22%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施策について、あなたはどのように考えますか。以下に示す各施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。(単一回答)

図9-2-6 各施策の重要度【地球温暖化対策】

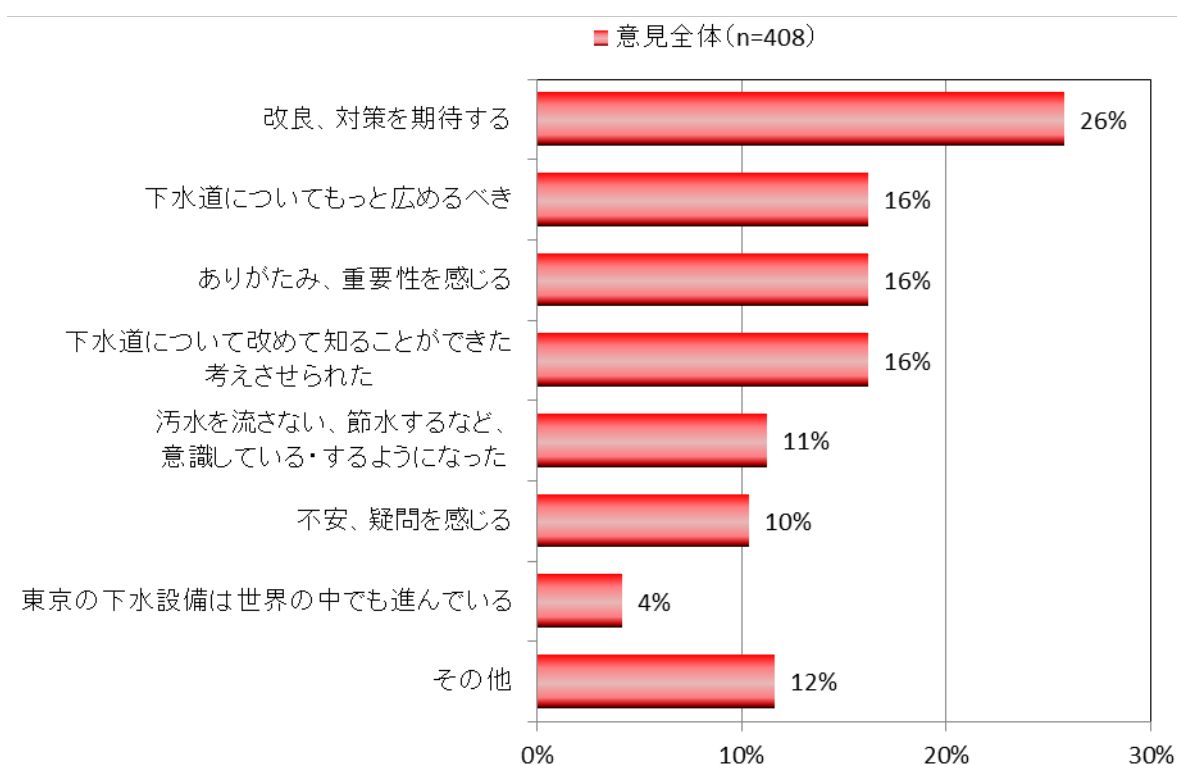


9-3. 下水道についての意見〔自由回答〕

- ◆ 下水道についての意見については、「改良、対策を期待する」が 26%と最も高く、次いで「下水道についてもっと広めるべき」と「ありがたみ、重要性を感じる」と「下水道について改めて知ることができた」がともに 16%であった。
- ◆ また、「東京の下水設備は世界の中でも進んでいる」が 4%であった。
- ◆ 以下に、東京都下水道局への意見の一部を紹介する。

Q14. あなたが下水道について日頃から考えていることやご意見がございましたら、お聞かせください。
(自由回答)

図 9-3 下水道についての意見について〔自由回答〕



1. 改良、対策を期待する

- ✧ 老朽化部分の修復や改善など時間と費用がかかりますが下水道は快適な暮らしに欠かせない大切な部分なので永く遠い未来に向けて必要であり続けることを思えば初期投資に注ぎ込む意味はあると思います。（40 歳代女性、23 区）
- ✧ 見えにくいが大変重要な事業領域と思っている。日々のご尽力ご努力に感謝するとともに、さらなる充実を期待しております。（60 歳代女性、23 区）
- ✧ 大型施設、ビル、ホテル等で自社での汚水処理（中水）はどの程度進んでいますか？少なければ、義務化して東京都としての汚水処理量を減らせませんか？この前の施設見学会で使用済みの油を流した時の弊害などを教わった後、油処理に気を使うようになった（完全ではなくても）。啓蒙活動は有効かも？洗剤のリンを少なくする法的規制は出来ないか。リンに限らず、下水処理に不都合な成分（その成分がなくても重大な問題にならないようなもの）は規制できないか。（70 歳以上男性、多摩地区）
- ✧ 今でも十分よくやってくださっています。今後も期待しています。（20 歳代女性、多摩地区）
- ✧ 下水道の改善で最優先すべきはゲリラ豪雨での浸水対策だと思います。近年の異常気象は悪くなる一方ですので住民の安全確保が重要です。発生頻度の少ない大規模地震への備えは徐々に進め、下水道の老朽化対策を 2 番目の優先で推進すべきと考えます。（60 歳代男性、23 区）

2. 下水道についてもっと広めるべき

- ✧ 下水道について考える機会が普通の人はないので、もっとテレビ等で宣伝した方がいいかと思う。（20 歳代女性、23 区）
- ✧ 一昔前は、玉川上水などで行われている、清流復活事業で流されている処理水は高度処理行われているとはいえ、鼻につく匂いがある時がありましたが、最近ではほとんど匂いも感じず、コイなども元気に泳いでいます。この高度処理はすごい技術だと思うが、あまり PR できていない感じがするのがもったいない。（30 歳代男性、多摩地区）
- ✧ 下水道についても問題については、努力されているのはわかるのですが、やはりまだまだ告知不足と思います。もっと多くの人に知ってもらい、早急に抜本的な対策を取るべきだと思います。モニターをさせていただいて下水道が重要な設備ですばらしく機能している事、近年は別に大きな問題を抱えている事しりました。貴重な知識と経験（施設見学）でした。（60 歳代男性、多摩地区）
- ✧ 小・中学校での下水道出張説明会のようなものを開催しては如何でしょうか？（40 歳代男性、23 区）
- ✧ モニターしていないと、下水について意識しない。協力、理解を得るためにももっと、効果的（安く広く）な広報活動をすべき。（たとえば、小中学生向けの教育等）（30 歳代男性、23 区）
- ✧ 活動についてお金はかかるが、テレビなどで啓蒙していただきたい、と思います。（60 歳代女性、23 区）

3. 不安、疑問を感じる

- ✧ 現在の下水処理が、川の生態系に対して「本当に」優しいのか。（20 歳代 男性、23 区）
- ✧ 下水道が完備されている国、地域の方が少ないわけなのだから、排水の水質等の処理等に費用をかけたることや、今後人口が少なくなるであろう地域（多摩等）への過剰な設備投資が必要なのか考えさせられた。（40 歳代女性、23 区）
- ✧ 地震で下水道が使えなくなると衛生状態が悪化するため、気になっている。（30 歳代男性、23 区）
- ✧ 清潔な暮らしができるのも、下水道がきちんと機能しているからだと思いますが、最近の水道管の破裂事故は気になります。（40 歳代女性、多摩地区）

4. 汚水を流さない、節水するなど、意識している・するようになった

- ✧ 生活の中で出る汚水を、なるべくキレイな状態で流すように意識している（食器の油は布で拭く・洗濯クズをゴミ箱に捨てるなど。（30 歳代女性、23 区）
- ✧ アンケートモニターになってから下水道の事を気にするようになった廃油を台所の流しから流さなくなった。（60 歳代女性、23 区）
- ✧ 下水道を汚さないために個人でできることは何かということを考えることがよくあります。なるべく汚れたものは拭き取って生ごみとして捨てて、流しに流さないくらいのことしかできていませんが、もっと他にできることがあれば（知ることが出来れば）すぐにでも実践したいです。（30 歳代男性、多摩地区）
- ✧ 自分自身の取り組み方を変えていかなければとおもう。使用した油を下水に流さない。（30 歳代男性、23 区）

5. ありがたみ、重要性を感じる

- ✧ 目に見えない施設であるが、大変重要なものであると思う。（60 歳代女性、23 区）
- ✧ 下水道は災害時や事故のときに、その有難味が判るものと思います。下水度なくして、住み良い環境はありません。10 数年前に大雨で一度だけ下水があふれて家の前の道路が冠水したことがあります、今は大雨でも冠水せず、改善され、感謝しています。（70 歳以上男性、23 区）
- ✧ 近年、突然のゲリラ豪雨が多発しているので、それらに対応できる下水道処理施設が都心でも必要であると思う。（50 歳代男性、23 区）
- ✧ 快適に水を使えるということは大変ありがたいことと思います。集中的な大雨が多くなり、ふだんの生活用水の処理だけではなく、災害を防ぐ面からも私たちの安全に関わる大切な役割を下水道が担うようになっていると感じます。（30 歳代女性、23 区）

6. 下水道について改めて知ることができた・考えさせられた

- ✧ 日々の生活の中で、下水道が原因で臭いや汚染といった問題を聞いたことはありません。それは、下水道局の方々のご尽力によるものです。いつもありがとうございます。このモニターを通して、色々な対策がされている事が分かり、大変勉強になりました。（40 歳代女性、多摩地区）
- ✧ 今回のモニターで下水道事業の大切さを認識しました。これからも頑張ってください。（60 歳代男性、23 区）
- ✧ 重要な設備だと考えている。（40 歳代男性、23 区）
- ✧ もっとみんなが興味を持ってくれたら良いと思う。（30 歳代女性、多摩地区）
- ✧ 日常、下水道は当たり前のように感じっていますが、毎日の生活上なくてはならないものの一つであり、担当者のご苦勞を感じています。頑張ってください。（70 歳以上男性、多摩地区）

7. 東京の下水設備は世界の中でも進んでいる

- ✧ 高度な生活環境の維持管理は必須であり 最高の技術・ノウハウを持って対応するべきであると考えます。（70 歳以上男性、23 区）
- ✧ 東京都内は十分に整備されている。（40 歳代男性、23 区）
- ✧ 海外に行くといかに日本の下水システムが高度であるかをとても実感させられます。これからはさらなる改善に向け取り組んでいってもらえればと思います。（30 歳代男性、多摩地区）
- ✧ 下水道のシステムが整った日本に生まれて良かったです。おかげで清潔な環境で暮らすことができます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。（40 歳代女性、多摩地区）

8. その他

- ✧ 季節によって排水能力も変わるのかな？と思ったりしました。(30 歳代女性、多摩地区)
- ✧ 地球温暖化は、必ずしも人為的原因ではない。よって、温暖化対策は重要視すべきではない。実際には、結果として炭酸ガスが増えているのであって、それは温暖化のせいではないことを調査検討すべき。(60 歳代男性、23 区)
- ✧ 下水管の位置や径、作られた時期などがそれぞれの場所で都民が分かるような仕組みを作ったらどうでしょうか。(50 歳代男性、23 区)
- ✧ 下水道に流しては良くなさそうな化学薬品の処理の仕方を教えて欲しい。(30 歳代女性、23 区)